

平成 30 年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を  
同時解決するための民間活動支援事業

## 里山保全体験を通じた障がい者雇用 促進を目指すプログラム事業

平成 31 年 3 月 15 日

里山ウェルネス研究会



## 目次

1. 業務概要	1
1) 業務の目的	1
2) 業務の内容	1
2. 実施体制	5
1) 経緯	5
2) 目的	7
3) 構成及びその役割	7
3. 事業実施の概要	9
1) 協議会の設置	9
2) 協議会の開催	13
3) 2カ年の事業計画の作成	17
4) 2カ年の事業計画に基づく事業の実施	18
ア 実証事業の実施	18
① デモンストレーション事業	18
② 実証事業及びプログラムの確立	22
イ 県内の他の地域の調査	25
ウ 説明会・報告会の開催	26
エ 活動の内容を取りまとめた周知	28
オ 経済的視点を含めた本格的な製品化を検討する企画会議を開催	30
① 木工製品開発企画会議の実施	30
② 木工製品の開発・販売に係るニーズ調査	32
5) 月次報告書の提出	33
6) 連絡会、キックオフ会合への参加	41
7) 支援事務局等との連携	42
8) 中間報告書の提出	44
4. 総括	45
1) 今年度事業の課題について	45
2) 次年度に向けて	45

□参考資料	47
(参考資料1)2 ヲ年事業計画カレンダー	49
(参考資料2) 飯山林福連携事業推進協働会議事録 (第1回～第4回)	50
(参考資料3) 作成した啓発ツール (リーフレット・チラシ)	58
(参考資料4) 活動記事 (WEB 記事)	61
(参考資料5) 皮むきにおける簡易作業手順書	63
(参考資料6) 機関紙に掲載されたログファイヤーの記事	64
(参考資料7) 間伐・間伐材利用コンクールの応募資料及び審査員評価	65
(参考資料8) ログファイヤーのチラシ	66
(参考資料9) 活動経緯チャート、SDGs 評価シート、協働評価シート	68
(参考資料10) 中間報告書 (2 ヲ年事業計画自己評価シート)	71



# 1. 業務概要

## 1) 業務の目的

平成 27 年 9 月 25 日に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」で中核をなすのが、世界が達成すべき 17 ゴール・169 ターゲットからなる SDGs（「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)）である。SDGs は、先進国、途上国の二元論ではなく、全ての国に適用される普遍性を持ち、環境・経済・社会の 3 側面に関する課題を統合的に解決することを目指すもので、パートナーシップの下で、あらゆるステークホルダーが力を合わせて取り組むことが求められている。

日本においても、政府一体となって SDGs に取り組むため、平成 28 年 5 月に閣議決定により「SDGs 推進本部」を設置して、「持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針」を策定し、その取組を推進しているところである。

しかしながら、国内では SDGs についての理解や具体的な取組等が十分に進展しているとはいえない状況にある。

こうした背景を踏まえて、地域における環境課題への取組を、SDGs を活用することにより他の社会課題の取組と統合的に進めることで、それぞれの課題との関係の深化、ステークホルダーの拡大、課題解決の加速化等を進めるとともに SDGs への理解を促すことを目的として実施した。

## 2) 業務の内容

本事業では持続的な地域木材の活用、林業における雇用創出を目指し、間伐材を活用した製品づくりによる障がい者雇用を通じた持続可能な地域づくりのための地域資源循環プランの作成、実践を行った。

### (1) 協議会の設置・開催

本事業の目的及び目標の共有を行うための協議会を設置し、本事業に関わる協働取組関係者（以下「協働関係者」という。）の役割を明確にするとともに、取組の具体的実施方法の協議等を行った。協議会には、協働関係者に加えて、オブザーバーとして、飯山社会福祉協議会、長野県、中部森林管理局の参画を得ることができ協議会はプレ協議会を含め、全 5 回開催した。

なお、協議会の開催に当たっては、協働関係者が相互理解を行う場であることを意識するとともに、i) 本事業において実施する取組が継続的なものとなる体制の構築、ii) 都市部からの関心・ニーズ等をワンストップで受ける対外的な窓口機能、についての具体的な検討・議論が行われるよう努めた。

## (2) 2カ年の事業計画の作成

この事業に始めるにあたって2カ年の事業計画を作成した。そのスケジュールに基づいて事業を行った。実際の事業で生じた課題や、当初の目標と結果との差異を分析し、事業の過程等を明らかにするとともに、取組を加速化していくうえでの様々な手法や留意事項等の検討を行った。

## (3) 2カ年の事業計画に基づく事業の実施

### ア 実証事業の実施

長野県飯山地域における里山保全、木材利用と障がい者雇用及び冬期における林業従事者の収入減等の課題に対して、同時解決することを目的として、以下の取組を通じて、林業・福祉の林福連携による地域づくりの実現を目指すプログラムの開発を行った。

#### ①デモンストレーション事業

下記②を実施するにあたり、実証事業場所である「いいやま里の家」において、障がい者の作業の難易度の適正化、安全性の向上等を図ることを目的として、協働関係者（オブザーバーを含む）で、協議会にて開発されたプログラムのデモンストレーションを実施した。

プログラムの内容は i) 飯山特産の木材を活用したログファイヤー製作における加工、ii) フォレストデザインが森林環境教育プログラム等で箸作りなどのクラフト体験に使われる材料の加工 iii) 加工後における梱包作業等とした。なお、デモンストレーション後に難易度、安全性等に課題が出た場合は、協働関係者で協議の上、プログラムの修正を行った。

#### ②実証事業及びプログラムの確立

上記①のプログラムを NPO 法人ここからに所属する者及び施設利用者 10 名を対象に実施した。

実施後は、ヒヤリングを実施し、林家、障がい者の作業工程のプログラムを確立させた。

なお、必要に応じて事前に環境整備を行うなど、安全な空間の確保に努めた。

#### イ 県内の他の地域の調査

本事業で確立されたプログラムを長野県内の他地域に広めることを目的として、当該プログラムの実施可能な地域の選定のため、北信（飯山市）と南信（松本市）の事業所の各 1 ヶ所視察調査を行った。

#### ウ 説明会・報告会の開催

本事業の長野県内における認知度・理解度の向上及び市民・県民の木材活用及び障がい者雇用の打開策への関心の高まりに資することを目的として、市民団体、県民、行政職員、学校等幅広い方々を対象とした本事業の説明会と報告会を開催した。なお、開催においては専門家におけるセミナーを同時開催とした。

#### エ 活動の内容の取りまとめと周知

長野県外を含むより多くの人に活動を広めるため、本事業内容やプログラムをとりまとめてチラシとリーフレットを製作し、県内の各市町村、社会福祉協議会、関係施設に周知を行った。

#### オ 経済的視点を含めた本格的な製品化を検討する企画会議を開催

##### ①木工製品開発企画会議の実施

飯山木材を活用したログファイヤーの製品化及び継続的な体制構築の検討のための企画会議を開催した。企画会議においては、製品の開発・販売活動、パッケージデザイン等を含んだ議論を行った。

##### ②木工製品の開発・販売に係るニーズ調査

上記①の会議をより実効的なものとするため、教育・福祉施設、キャンプ場等を対象として、取組について理解と協力を得た上で、試作品の試用状況に係るヒアリング調査を行った。

#### (4) 月次報告書の提出

支援事務局の中部環境パートナーシップオフィスと連携をして、毎月、取組の状況の報告を行なった。また、支援事務局からヒアリング等の要請があった場合は随時対応し、イベントなどに出席して報告をした。

#### (5) 連絡会、キックオフ会合への参加

支援事務局が飯山市にて2回開催した連絡会、及び全国事務局が8月に東京で開催したキックオフ会合に出席した。それぞれについて、本事業の責任者と協働関係者の担当者1名以上が出席している。

#### (6) 支援事務局等との連携

本業務の実施及びとりまとめに当たり、支援事務局と連絡を密にし、定期的に状況を報告するとともに、支援事務局からの照会やヒアリング等の要請に

は、誠意をもって対応した。

(7) 中間報告書の提出

外部評価委員会の審査に必要な中間報告書（2ヵ年事業計画自己評価シートの記入）を平成31年1月10日までに作成し、中部地方環境事務所に提出した。

(8) 事業の実施期間

自 平成30年7月2日

至 平成31年3月15日

## 2. 実施体制

### 1) 経緯

2018年7月、栃木でSDGs事業を手がける「NPO法人エコロジーオンライン」が中心となり、長野県飯山市で里山保全事業を展開する「フォレストデザイン」、森林セラピーを手がける「御宿飯山館」とともに、「里山ウェルネス研究会」を設立した。

この法人の設立の目的は、長野県の豊かな自然をベースに、里山体験や森づくりに関わる事業を展開し、都市や地域に住む皆様に健康な暮らしを提案し、高齢者や障がい者の居場所、働く場をつくっていくことである。長野県、林野庁、中部森林管理局などと連携し、長野県内に整備された森林セラピー施設で認知症予防の取り組みをすることで打ち合わせをしていた3団体がこのSDGs事業の受託にあわせて法人化したものである。

事務局を担う「エコロジーオンライン」は栃木県佐野市に拠点があり、地球温暖化防止の活動で環境大臣表彰を受けるなど、地球環境問題に解決に関わって19年を経過している。「エコロジーオンライン」がSDGs事業に関わるきっかけとなったのは本法人の代表でもある理事長の上岡裕の父母が認知症を発症したことに端を発する。我が国が抱える少子高齢化に起因する認知症問題に直面することになり、地域で活動する団体として地球環境問題とともに、高齢者の認知症予防を手がけることになった。

地域社会が抱える課題は全国に共通するものが多い。「エコロジーオンライン」の活動拠点がある栃木県佐野市でも少子高齢化が進んでいる。多くの市民団体が会員の高齢化を抱え、現場で活動できる人材が減り続けることが共通の課題だ。そんな地域社会で新しい取り組みをするにあたって、「エコロジーオンライン」が連携したのが地域で就労支援を手がける「就労支援センター風の丘」だった。

彼らが抱える課題は引きこもりの長期化だった。最近では50代の引きこもりを80代の親が年金で支え、40代の引きこもりを同様に70代の親が支えている。幼いころの不登校から、そのまま引きこもりに移行する人も多く、風の丘には就労経験がない人たちが相談に来るようになった。彼らにスキルだけを提供しても社会体験がないため仕事が続かないことから、地域貢献型の就労支援プログラムとして「エコロジーオンライン」でボランティアをしてもらうこととした。

こうして「エコロジーオンライン」は、「風の丘」と連携して、地域の高齢者施設などに出かけて認知症予防トレーニングの出張事業を手がけるようにな

った。実際に事業を手がけてみると、高齢者の皆さんも若者たちの訪問で笑顔になり、「風の丘」の利用者のカーテンを高齢者の住宅に設置するボランティアなどを実施し、地球温暖化への適応の事業にも協力してもらうことになっている。

このような体験を持つ「エコロジーオンライン」が、「風の丘」のセンター長から、農業や林業などの第一次産業は、精神障がいを持った人たちにとって好ましい分野の仕事であることを教えられた。家に引きこもった人たちは部屋にこもってゲームなどをして一日を過ごす。そのために身体感覚が失われがちだ。田や畑、畝、里山、森林は平坦でもなければ、直線的でもない。彼らにとってリアルに自然と触れ合う体験は新鮮であり、自らモノを生み出す感動も味わえる。そうした示唆もあり、里山保全のなかで障がい者に社会体験や雇用も提供できるのではないかと考えたことがスタートになった。

一方、飯山市の里山保全を手がける「フォレストデザイン」もスタッフ不足に悩んでいた。すでに人手が足りない時には、地域で精神障がい者のためのグループホームを運営する「NPO法人ここから」の利用者に協力してもらうなどの関係を持っていた。飯山市は冬の雪が深いため工業誘致などが進まず、昔懐かしい里山景観が遺されている。この里山景観を憧れて移り住む外国人もいることなどから、インバウンドを生み出す資源ともなりうる。しかし、実際に里山を歩いてみると地域に人が少なくなったため、管理が行き届かず、荒れ放題になっているところも多い。こうした里山を管理し、資源として活用して行くために必要となる人材の確保が難しく、その人材を雇うための経済も生み出さないといけない。里山保全をする団体と、働く場を求めている障がい者をつなぎ、それ自体を「林福連携」のブランドとして掲げ、里山保全から生まれた商品を持続的に販売することができれば、そうしたクリティカルな課題を乗り越えることができる。

地域の環境課題と社会課題の同時解決を目指す本事業は、飯山での「林福連携」の可能性を試すことに適した事業であると考えたことから、新しい法人も整備し、事業を開始することになった。

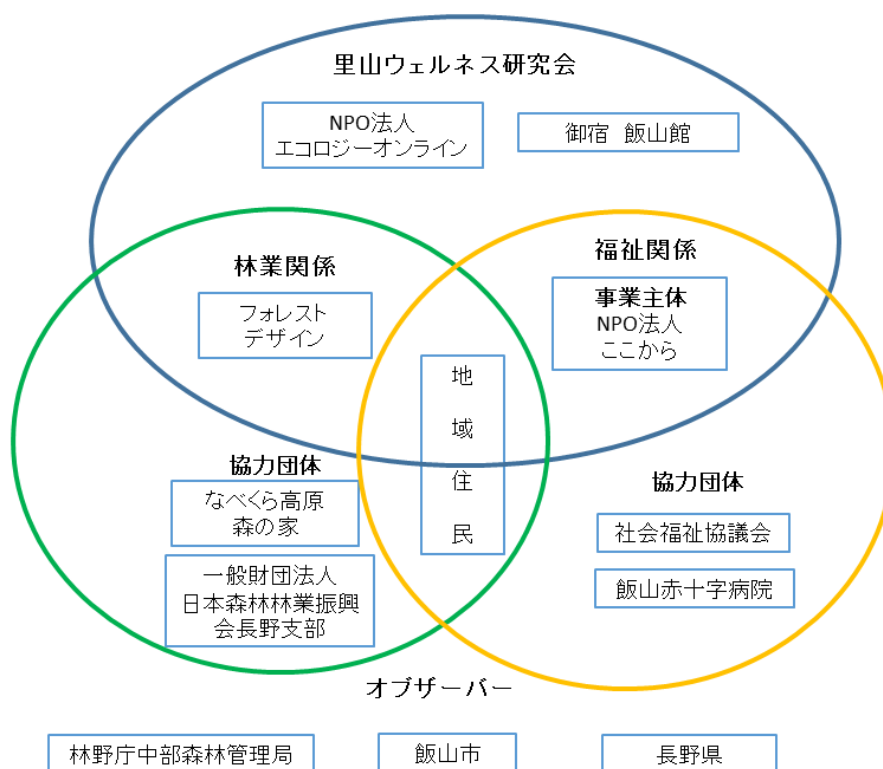
## 2) 目的

地域の担い手不足の課題が里山保全と木材利用にも大きく影響しており、自然あふれるこの地に、林家及び林業従事者と障がい者の取組（作業）をあわせることで、以下の課題を同時に解決することが持続可能な地域づくりにつながることを目的としている。

- ①里山整備等で出た間伐木材の利用が進まない。
- ②障がい者雇用支援の不足
- ③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少

## 3) 構成及びその役割

ステークホルダーとの関係図



各団体の主な役割

組織名	セクター	役割
NPO 法人 エコロジーオンライン	民間団体	広報・事業管理
フォレストデザイン	企業	作業・プログラム安全管理
御宿 飯山館	企業	広報
NPO 法人ここから	民間団体	障がい者支援
なべくら高原森の上	民間団体	フィールド提供
日本森林林業振興会長野 支部	民間団体	林業専門家派遣・情報提供
飯山市社会福祉協議会	民間団体	施設使用提供・サポート
飯山日赤病院	民間団体	障がい者サポート
飯山市	行政	オブザーバー・活動支援
長野県	行政	オブザーバー・活動支援
中部森林管理局	行政	活動支援



### 3. 事業実施の概要

#### 1) 協議会の設置

協議会の設置・運営に向けて、長野県、飯山市、社会福祉協議会などへ協議会への参加要請を行っていった。長野県は「SDGs 未来都市」に選定されていたことと、林福連携事業に興味を持っていたため、林務部と健康福祉部がオブザーバーとして参加することとなった。また、飯山市もすでに農福連携事業を進めており、長野県との連携も進捗していることから、商工観光課、保健福祉課、農林課の参画を得ることができた。

その他の中部森林管理局、一般社団法人日本森林林業振興会長野支部、なべくら高原森の家、飯山赤十字病院などによる、森林セラピーを活用する認知症予防の事業が動いていたため、そのネットワークを有効活用することとした。

また、障がい者雇用の専門家として、長野県自立支援協議会運営委員の上野隆一氏、森林活動に関する専門家として、一般財団法人日本森林林業振興会長野支部の有井寿美男氏が参加することとなった。

各団体に協議会への参加の根回しをするなかで SDGs についての理解が進んでいない現状を目の当たりにした。そのため 8 月 27 日、正式な協議会を始める前にプレ協議会として EPO 中部の担当者による SDGs 入門講座と本事業の説明会を実施した。飯山市での協議会設立を後押しする環境省の事業の説明、ツールとして活用される SDGs（持続可能な開発目標）の紹介につづき、本協議会の運営についての具体的な方向性とスケジュールなどについて情報交換を行った。説明会の終了後、飯山市役所の参加者から、SDGs について理解が進んだという声が出ていた。その一方、本事業については複数課題の解決に関わることから、多様なステークホルダーの参加が不可欠であり、丁寧なコミュニケーションから細い道を探していくような事業であることが想定された。

すでに動いている農福連携事業の「フジすまいるファーム飯山」の運営状況についても、冬の雪が降る時期に野菜が栽培できないこともあって、障がい者の仕事が失われることから、そうした不安定さを解消する事業を求めているという声が寄せられた。この事業が想定しているのが法人として雇用をするのか、法人として障がい者を雇用する団体に仕事を発注するかということも、それぞれに理解の違いがあって、協議会の運営のなかで、その方向性を明らかにすることが必要であることを感じた。また、新しい事業であるため、地域にしっかりと根回しをしたうえで、メディア展開などを考えて欲しいとの意見が出された。

・協議会メンバー

氏名	所属
上岡 裕	里山ウェルネス研究会代表（エコロジーオンライン）
宮澤 豊	里山ウェルネス研究会副代表（飯山館）
大和田 正勝	里山ウェルネス研究会事務局長（エコロジーオンライン）
余頃 友康	里山ウェルネス研究会（フォレストデザイン）
萩原 悦子	里山ウェルネス研究会（NPO 法人ここから代表）
川中 直美	里山ウェルネス研究会（NPO 法人ここから）
上岡 七生美	里山ウェルネス研究会事務局（エコロジーオンライン）
上野 純子	飯山社会福祉協議会総務課長
坪井 学	飯山市商工観光課課長
鈴木 靖史	飯山市保健福祉課課長
江尻 浩和	飯山市農林課課長
城 風人	長野県林務部信州の木活用課課長
吉澤 史浩	長野県健康福祉部
中田 恵子	地域住民
大西 宏志	なべくら高原・森の家
有井 寿美男	一般財団法人日本森林林業振興会長野支部（林業専門家）
上野 隆一	長野県自立支援協議会運営委員（福祉専門家）
西田清紀	環境省中部地方環境事務所環境対策課
川合 学	中部地方環境事務所
富田 夏子	EPO 中部（支援事務局）
原 理史	EPO 中部（支援事務局）
清本 三郎	EPO 中部（支援事務局）

また、第1回協議会に先立ち、9月10日、この事業を担当する中部環境事務所とともに、中島恵理副知事を表敬訪問した。中島副知事からは、長野県内の事業が採択されたことについての感謝の言葉をいただき、「SDGs 未来都市」として障がい者の雇用促進を目標の一つに掲げる県との協働についてのご提案もいただいた。加えて、9月12日には飯山市の足立正則市長にも表敬訪問を実施した。足立市長からも激励の言葉を頂いた。さらに、足立市政第3期の重点

項目の中に「障がい者雇用と里山保全とをマッチングした連携事業（林福連携事業）を推進する」という項目が挙げられている。

里山ウェルネス研究会 ・ 11日 9月 2018

## ❁ 里山ウェルネス研究会が長野県中島恵理副知事を表敬訪問 飯山市で実施する林福連携事業が環境省SDGs事業を受託したことを報告しました。



事業の主役となる「ログファイヤー」を長野県に寄贈しました。

森林・里山と健康をつなぐ事業を手がける里山ウェルネス研究会（長野県飯山市 代表：上岡裕）が、環境省の「平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」を受託。9月10日、この事業を担当する中部環境事務所とともに、中島恵理副知事を表敬訪問しました。

今回受託した「里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業」では、飯山市の自然豊かな景観を守るために実施する里山整備から生まれるスギやカラマツなどの間伐材を有効活用するために考案された「ログファイヤー」の生産を中心に、環境教育に活用される木のグッズの加工や、里山を保全するための整備の実践のなかに、障がい者が関わられる作業を探していきます。

2年にわたって飯山市で積み上げた成果を、地域で手がける持続可能な開発目標（SDGs）を達成するモデルの一つとして全国へ発信していきます。

中島副知事からは、長野県内の事業が採択されたことについての感謝の言葉をいただき、「SDGs未来都市」として障がい者の雇用促進を目標の一つに掲げる県との協働についてのご提案もいただきました。9月18日から始まる「飯山林福連携推進協議会」を通して事業に反映していくこととなります。

（参考）長野県副知事を表敬訪問した際のエコロジーオンラインの記事

育について同じ思いを共有していたので（否決は）非常に残念だ」とした。麻績村と筑北村は両村の代

定例会はこの日、本年度一般会計補正予算など他の議案は原案通り可決し閉会した。

## 「林・福連携」飯山で事業化

### 障害者の手を借り丸太を加工

#### 有志団体 環境省事業に選ばれる

森林の保全や価値向上に取り組む飯山市の有志団体「里山ウェルネス研究会」の事業が、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」達成を目指す環境省の委託事業に県内

性化と障害者雇用の両立を目指すことが評価された。同研究会の上岡裕代表らが10日、県庁に中島恵理副知事を訪ね、事業の概要を説明し、



持参した「ログファイヤー」の仕組みを説明する研究会の役員ら10日、県庁

協力を仰いだ。ログファイヤーは、野外で調理したり暖を取ったりする熱源になるほか、明かりにもなる。災害時の利用も想定できる。事業を本格的に始める時期や雇用数は未定。

環境省の事業はSDGsの考え方に沿い、社会、環境両面の課題を同時解決する民間の取り組みが対象。応募があった全国48事業のうち8事業が選ばれ、県内では同研究会が唯一受託した。事業は2年間で、同省は年間200万円未満の費用を拠出する。

上岡代表はPR面などで県の支援を受けたいなどと依頼。中島副知事は「林・福連携」のモデルをつくってもらい、ノウハウを県も共有したい」とした。

県会山岳環境保全対策議

## 県議9人が

### 乗鞍岳視察

県会の山岳環境保全対策議員連盟（50人）の県議9人が10日、北アルプス乗鞍岳を視察し、中村浩志・信州大名誉教授（鳥類生態学）からライ

（参考）長野県知事を表敬訪問した際の信濃毎日の記事



## 経済の発展

人口対策として活力ある「グローバル＆ローカル」な経済振興を推進します。

▼グローバル（国際的）で先進的な観光地づくり

海外の観光客をターゲットに、一年をとおして飯山市の自然資源を生かした事業を進めます。また、国際レベルのサイクルツーリズムの実施、アウトドアスポーツの聖地化を進めます。

▼公民連携による地域開発

高速交通ハブ機能、宿泊施設、飲食・ショッピング施設、住宅地等を集め、飯山赤十字病院、なちゅら、図書館など文教エリアと隣接、連携した新幹線駅周辺地域の整備を行います。

▼ITオフィス基地の誘致

▼コミュニティ・ビジネス手法の開発と展開

長野県立大学と連携して地域の資源を活用したスモールビジネスや地域課題を持続的に解決する手法を活用します。

▼地域を生かした経済の振興

## 健康を守る

市民の健康増進のため、予防医療の先進地をつくります。

▼医療体制の充実

飯山赤十字病院の医師確保・運営への連携支援の強化、18歳までの子どもや妊産婦の医療費の無料化を充実します。

▼予防医療の強化

長野保健医療大学と連携し、市民の健康増進、健康寿命の延伸のため事業を行います。また、胃がん撲滅を飯山赤十字病院などの医療機関と連携して進めます。

▼就労支援

学生に対して地元への就労情報の提供や就労支援を行います。若者の地元への就労、人材育成、後継者対策等、支援します。障がい者雇用と里山保全とをマッチングした連携事業（林福連携）を推進します。高齢者が持つ知識、経験が生かせ、就業できるビジネスモデルを創出します。

\*市報 いいやまより参照

## 2) 協議会の開催

(1) 飯山林福連携推進事業プレ協議会（参考資料 2 参照）

日 時：平成 30 年 8 月 27 日（月）

場 所：御宿 飯山館

- 内 容
- ① 参加者の自己紹介
  - ② 里山ウェルネス研究会による事業紹介
  - ③ 中部環境事務所による SDGs 事業紹介



(2) 第1回飯山林福連携推進協議会 (参考資料2 参照)

日 時：平成30年9月18日 (火)

場 所：いいやま里の家

内 容

- ① 里山ウェルネス研究会による事業紹介
- ② 中部環境事務所によるSDGs事業紹介
- ③ 自己紹介と本事業との関わり
- ④ デモンストレーション



(3) 第2回飯山林福連携推進協議会（参考資料2参照）

日 時：平成30年10月4日（木）

場 所：いいやま里の家及び飯山市社会福祉センター

内 容

- ① 本事業の説明と現在の進捗状況
- ② デモンストレーション
- ③ 長野県内の障がい者雇用について
- ④ 意見交換要旨



(4) 第3回飯山林福連携推進協議会（参考資料2参照）

日 時：平成30年10月29日（火）

場 所：飯山市社会福祉センター

内 容

- ① 今までの振り返り
- ② 意見交換
- ③ ログファイヤーの製品企画会議





(5) 第4回飯山林福連携推進協議会（参考資料2参照）

日 時：平成31年3月8日（金）

場 所：飯山市社会福祉センター

内 容

- ①SDG s 同時解決事業報告会及び事例紹介セミナー
- ②意見・情報交換会





### 3) 2カ年の事業計画の作成

各ステークホルダーと、地域課題の明確化、事業の目的、目標、行動計画を共有するために2カ年の事業計画を作成した。

①-1 地域課題の整理

**■地域の状況や課題背景**

長野県飯山市は、長野県の最北に位置し、西側の新潟県との県境には延長約80kmの信越トレイルが走り、緑豊かな自然に包まれている。「毎の森+神の森」と名付けられており、森林セラピー基地も存在する。また、この地域は高齢化・高齢に伴い、里山の整備をする人が減っていく上に、労働力不足ということもあり、年間を通して森林整備を行うことができず、冬期期間、林家や林業従事者の収入がなくなってしまうという課題を抱えています。

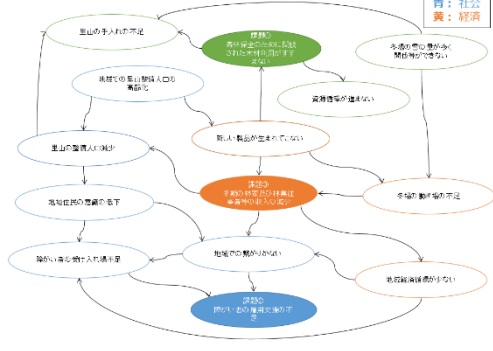
併せて飯山市では平成19年3月に飯山市障害者計画（平成18年度～平成23年度）を策定し、障がい者雇用の推進を図ってきましたが、地域で暮らし続けるためのサポート体制、災害時の障がい者の避難や避難場所の確保、就労支援においては、実質的な確保等が課題となっています。

地域の抱える半不況の課題が里山保全と木材利用にも大きく影響しており、自然あふれるこの地に、林家及び林業従事者と障がい者の取組（作業）を合わせることで、課題を同時に解決することが持続可能な地域づくりにつながることを期待しています。

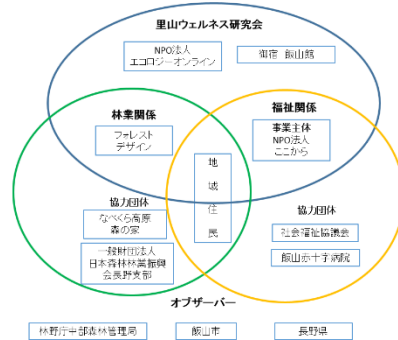
**■何と何の地域課題の解決に取り組むか**

- ① 森林保全のために間伐された木材利用が進まない
- ② 障がい者雇用支援の不足
- ③ 冬期の林家及び林業従事者等の収入減少

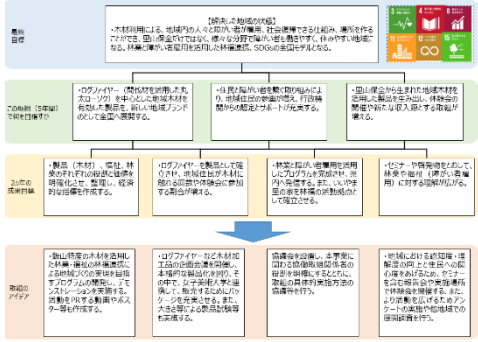
①-2 地域課題の整理（課題と課題の関係図）※①-1を参照してください。



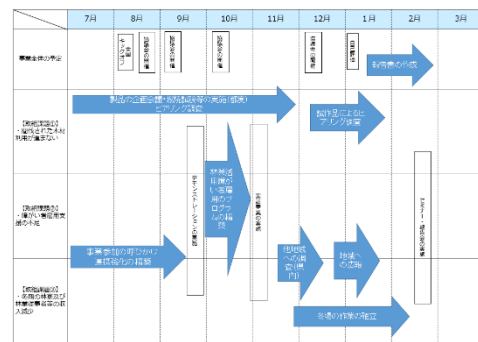
③ 運営体制の整理（ステークホルダーとの関係性）



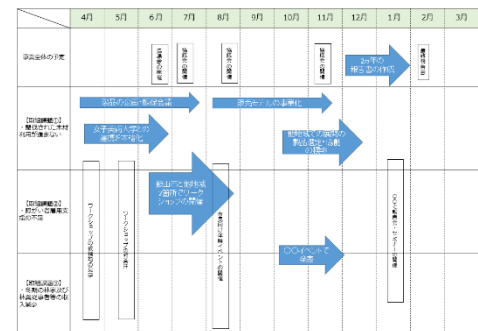
② 事業の整理（同時解決マップ）



⑥-1 課題解決に向けたスケジュール（平成30年度）



⑥-2 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）



⑤ 本事業計画の見通し

**■事業期間内（2カ年）の到達目標**

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
【取組課題①】 ・間伐された木材の活用が進まない	・ログファイバーを製品化させて、本格普及を図る。 ・ログファイバーの活用を進め、木材の活用を促進させる。 ・新しい形で活用された木材の活用を促進し、飯山市に定着させる。
【取組課題②】 ・障がい者雇用支援体制の不足	・雇用プログラムが確立され、障がい者に対して、雇用プログラムを活用して取り組む体制ができる。 ・飯山市及び長野県において、福祉の連携による雇用を促進し、行政からのサポートが充実される。 ・いろいろな業種の業（フォレストデザイン）が障がい者雇用として確立される。
【取組課題③】 ・冬期の林家及び林業従事者等の収入減少	・冬期の林家及び林業従事者の作業が明確化され、収入増加に繋がる。

**■5年後（事業期間終了から3年後）の取組と地域像**

取組の状況や地域課題に対してどのような影響を与えているか

- ・本事業の林業・福祉の連携から、地域木材と雇用、経済が三位一体となり、新しい地域課題解決モデルとしての発展となる
- ・取材や地域からの需要が増え、地域の活性化につながる
- ・障がい者や高齢者や若年層を通じて、飯山市に障がい者が増える
- ・地域や世代を超えた交流が生まれ、多くの人々により新しい関係が生まれ、新しい事業計画が組み立てられる。
- ・同業種が中心となり、SDGs、林業振興のモデル地域としての評価の場として活動が広がる。

④ 平成30年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
【取組課題①】 ・間伐された木材の活用が進まない	・ログファイバーの製品化を進め、ヒアリング調査等を通して、製品としての確立をさせる。 ・燃焼試験等を通して、ログファイバーの性能を明確化する。
【取組課題②】 ・障がい者雇用支援体制の不足	・本事業の地域住民の連携を通じて、課題をより明確にし、林業連携のプログラムを確立させる。 ・他地域での調査を通して、飯山市内だけでなく、長野県内での、地域住民の新たなキーマンとしての発見を促す。若年層の交流の場として働きかけを行う。
【取組課題③】 ・冬期における林家及び林業従事者等の収入減少	・冬期における林家及び林業従事者の作業を明確化する。 ・連携をとおして、林家及び林業従事者の収入を増加させる。

#### 4) 2カ年の事業計画に基づく事業の実施

##### ア 実証事業の実施（プログラム開発）

管理をする人がいなくなり、荒れ放題になった里山は不法投棄の格好の場となり、奥山にいるはずの鳥獣の住みかともなり、農作物への被害をもたらす。また、倒木寸前の木が道路や民家近くに存在するなど、地域の住民の安全上の脅威となる。

里山がしっかりと管理され、危険が除去されれば、そこは環境教育の場ともなり、保全された里山はインバウンド等のツーリズムを生む自然景観として地域資源に変化する。そのためには里山を管理することが不可欠であり、行政からの補助に頼るだけでなく、持続的な里山経済を生み出す必要がある。

「里山ウェルネス研究会」を構成する「フォレストデザイン」は、飯山という地域に軸足をおき、地域の里山の管理を担うとともに、日本一の里山だとも言われる里山を資源にした経済をつくるために活動して来た団体である。地域の住民のSOSに応じて木を伐り、その木の処理までを担うことで里山保全に貢献をしてきた。林福連携事業に活用されるのは、そうした地域の木材であり、その木を有効活用して収益をあげ、保全する里山面積を増やすことを目的としている。

それらの木を有効活用するため、丸太ろうそく「ログファイヤー」、森林環境教育プログラム等のクラフト体験で使われる箸などの素材として活用することを「フォレストデザイン」で手がけていた。「フォレストデザイン」の活動に「NPO法人ここから」の協力を得ることが多かったため、これらの製作に障がいを持った人たちに協力してもらってSDGs啓発商品として普及させる検討が始まった。

障がいを持った人たちに関わってもらうためには、その製作過程のなかのどの作業が彼らに向き、どのように安全上の配慮をするかが重要になる。そのため、協働関係者やSDGs事業に関わる有識者の皆さまにログファイヤーや箸の素材となる木、生産の過程などを開示し、意見の集約をするためにデモンストレーションを行った。

##### ①デモンストレーション事業

実証事業場所である「いいやま里の家」において、障がい者の作業の難易度の適正化、安全性の向上等を図ることを目的として、協働関係者（オブザーバーを含む）で、協議会にて開発されたプログラムのデモンストレーションを実施した。

実施日時：9月18日（火）（第2回協議会と同時開催）

実施場所：いいやま里の家

- ・いいやま里の家周辺環境の紹介
- ・ログファイヤーの燃焼体験
- ・活用される木材の紹介
- ・ログファイヤーの製造過程の説明
- ・クラフト材料の加工過程の説明
- ・加工の際に活用する器具の紹介

i) 飯山特産の木材を活用したログファイヤー製作における加工のデモンストレーション

ログファイヤーは飯山市の集落で里山保全のために間伐された木材のうち、建材など一般流通にのることが出来ない木材を使っている。ログファイヤーはある程度乾燥された木材を利用しなくてはいけなく、乾燥には一般的に3ヶ月から6ヶ月以上かかる。

以上について説明した上で、次の手順でデモンストレーションを実施した。

	
木材の説名及び選定について	野書きの説明
	
野書き後の様子（中心を作る）	木材の加工



	
<p>加工後の木材（特許取得）</p>	<p>皮むきの説明（写真はなた使用）</p>
	
<p>皮むきの様子</p>	<p>皮むき後の製品</p>
	
<p>メンバーによる着火（3分程度）</p>	<p>着火後を囲むメンバー</p>

ii) フォレストデザインが森林環境教育プログラム等で箸作りなどのクラフト体験に使われる材料の加工のデモンストレーション

森林環境教育プログラムで使われる材は薪として切られた木材やログファイヤーとしても使用できない木材を活用した。高さ 30cm 幅 10cm 程度の大きさに切られた木材を刃物とハンマーを活用して端材を作った。これを箸の大きさに

に加工し、箸として使えない材料に関しては、ログファイヤーの着火材の一部として使用した。



iii) 加工後における梱包作業等  
普段から行っている、施設の作業等での梱包作業で対応可能であることとわかったため、デモンストレーション及び実証事業の対象作業から除外した。

\*作業工程におけるそれぞれの役割





## ②実証事業及びプログラムの確立

### i) 実施概要

日 時：平成 30 年 12 月 11 日（火） 10：00～14：00

場 所：NPO 法人ここから自立支援施設

参加者：施設利用者及び関係者 10 名

内 容：5 種類の皮むき工具を利用して、ログファイヤーの皮むき実践  
<使用した工具の種類>

曲面カンナ、ナタ、皮はぎ鎌、ベルトサンダー、両手皮剥の 5 種類



<作業の様子>



ii) 利用者等にヒアリングした結果

<施設担当者からみた利用者に対する感想>

- ・ 道具の用意が難しかったと思うが、寒い時期での作業は残念だった。
- ・ 一つ一つの道具の体験だったが、利用者は楽しそうだった。順番が来るのを、楽しみに待っていた。
- ・ 一つ一つの道具に対しての注意事項が的確で、怪我をしないで作業ができて良かった。
- ・ 利用者が今後の実際の作業を楽しみにしている。

<今後、期待すること>

- ・ 林福連携ということでの健常者スタッフとの関り。
- ・ 行っている作業が、社会にどのように関わっているのかを伝えること。
- ・ 利用者の体調に合わせてながら体を動かし、適度な疲労感と達成感を味わってもらいたい。
- ・ 作業を行うことで、危険予測ができるようになってほしい。

<林業家からみた施設利用者の作業の様子や会話での反応について>

- ・ しゃがんでやるのはつらい。
- ・ 立ってやるのは良い。
- ・ 楽しくできた。
- ・ 半日くらいなら大丈夫。
- ・ 1週間から10日に1回くらいなら実施してもよい。
- ・ 引くのに力がある。
- ・ ディスクグラインダーはきれいにできて良い。

iii) プログラムの確立

実証事業として次の工程を簡易作業手順書として整理し、プログラムを確立した。

- ・ 加工前：皮がついているログファイヤーの写真
- ・ 使用する道具：曲面カンナ、両手皮剥、ナタ、皮はぎ鎌、  
ディスクグラインダー、皮むき器
- ・ 工具①曲面カンナ：電動なので、工具の前後に手を出さない。  
両手でしっかり押さえる。
- ・ 工具②両手皮剥：刃を自分のすねに当てないよう気をつける。
- ・ 工具③皮はぎ鎌：力の加減で、ログファイヤーが浮いしまうので、  
抑えながら作業する
- ・ 工具④ディスクグラインダー：力が強いのでしっかりと押さえて  
作業する。

- 工具⑤皮むき器：力の加減で、ログファイヤーが浮いてしまうので、抑えながら作業する
- 完成品：皮がむかれているログファイヤーの写真  
 <簡易作業手順書>

かわ てじゆん ログファイヤー皮むき手順	
	かこうまえ 加工前 かわ 皮がついているログファイヤー
	しよう どうぐ 使用する道具 きょくめん りょうて かわ むき 曲面カンナ、両手皮剥、ナタ、 かわ かま 皮はぎ鎌、ディスクグラインダー、皮むき器
	こうぐ きょくめん 工具①曲面カンナ でんどう こうぐ ぜんご て だ 電動なので、工具の前後に手を出さない。 りょうて お 両手でしっかり押さえる。
	こうぐ りょうて かわ むき 工具②両手皮剥 は じぶん あ 刃を自分のすねに当てないように き 気をつける。
	こうぐ かわ かま 工具③皮はぎ鎌 ちから かげん う 力の加減で、ログファイヤーが浮いて おき さぎょう しまうので、抑えながら作業する
	こうぐ 工具④ディスクグラインダー ちからつよ お 力が強いのでしっかりと押さえて さぎょう 作業する。
	こうぐ かわ き 工具⑤皮むき器 ちからかげん う 力の加減で、ログファイヤーが浮いてしまう おき さぎょう ので、抑えながら作業する
	かんせいひん 完成品 かわ 皮がむかれているログファイヤー

<作業手順マニュアル作成のポイント>

1. 完成前と完成後の状態をわかりやすくしておく。
2. 混乱しないよう、工具等には数字と名前をはっきりと書いておく  
 (作業手順マニュアルと一致するように)
3. 作業の手順・行動は時系列で記載する。
4. 文章は短くし、写真や図等を用いる。
5. あいまいな表現ではなく具体的な内容にしておく。



作成に当たっては、自分が参照してわかりやすい作業手順書を作ることを心がける必要がある。

これらのポイントを踏まえて、次年度においては、作業者がしやすい、本格的な作業手順書を作成する。

#### iv) 安全確保等

デモンストレーションにおいて、障がい者が怪我をしないよう安全装備（カバー）などの装着をするなどの安全対策を実施した。

#### イ 県内の他の地域の調査

本事業で確立されたプログラムを長野県内の他地域に広めることと各地の取組の調査を目的として、北信（飯山市）、南信（松本市）各1ヶ所視察調査を行った。

##### ①北信地域 飯山市

訪問社名：株式会社フジすまいるファーム飯山

訪問日時：平成30年11月20日（火）

所在地：長野県飯山市

事業内容：障がい福祉サービス事業

坂井芋、雪室大根、大根・キャベツ・雪下人参の生産等

従業員数：19名

障害者数：13名（障害福祉サービス利用者）

経緯：平成26年に障がい者雇用事業者である高知県南国市の㈱ダックスを飯山市議会が視察したのがきっかけとなる。その後、市の職員がシンポジウム等に参加し、平成27年1月に長野県及び飯山市の関係者による打ち合わせがスタート。その後、農福連携事業の勉強会、市長に北海道芽室町視察、飯山市農福連携推進会議の設立を経て、平成28年3月に設立。平成28年9月1日にA型事業所として開所した。

作業内容：トラクター、管理機等による農業

冬季等における規格外商品の袋詰作業

柑橘類を取り寄せての施設外における販売、広報活動

飯山市内のイベントにおける配膳、片付け作業

お客様より搬入のあった金属等の仕分け作業 など

##### ②南信地域 松本市

訪問社名：株式会社しんえこ

訪問日時：平成31年2月18日（月）

所在地：長野県松本市

事業内容：鉄、非鉄金属、廃プラスチック、廃家電、廃OA機器、  
廃自動車、古紙の収集運搬及びリサイクル

従業員数：約 60 名

障害者数：約 13 名（社員）

経緯：平成 24 年に市場獲得を目指す中、障がいのある方とともに事業を行っている福祉事業所があることを知り、その事業所の見学をさせていただいた。その際に同福祉事業所では就労移行支援事業所の開設を検討していることから、工場の一部と商材を使って障がい者の一般就労への訓練ができないかと考え、自社採用したことが始まり。こうした、出会いの中で、福祉事業所へ提案し、平成 25 年 4 月に同福祉事業所で就労移行支援事業が確立、当社工場内に施設外就労の施設が開設されることとなった。

作業内容：古紙のひも切り

電動工具等を用いて大型家電等の解体・分別作業

大型破砕機から出てくる鉄・非鉄金属のピッキング作業

お客様より搬入のあった金属等の仕分け作業 など



## ウ 説明会・報告会の開催

### i) 説明会の開催

10月4日、いいやま里の家で地域住民への事業の理解を図るため、ログファイヤーを囲んでの交流会を開催した。

11月16日にいいやま里の家が所属する地域区の総会において、藤田代表等に対して、本事業の概要とこの地域で出される木材を活用して、ログファイヤーを今後展開していくことを説明した。

ii) 報告会（セミナー同時開催）の開催

市民、県民、行政職員、学校等幅広い方々を対象として、本年度の報告会を開催した。なお、同時に専門家によるセミナーを開催した。

日 時：平成 31 年 3 月 8 日（金） \* 第 4 回協議会同時開催

場 所：飯山市社会福祉センター

内 容：SDG s 同時解決事業

飯山林福連携事業報告会及び事例紹介セミナー

<事例紹介>

- ・株式会社フジすまいるファーム飯山 中田恵子氏  
フジすまいるファーム飯山における農福連携事業の紹介  
～まちと人を、耕す、フジすまいるファーム飯山～

<事業報告>

- ・里山ウェルネス研究会 事務局長 大和田正勝  
平成 30 年度飯山林福連携事業の事業報告及び今後の展望





#### エ 活動の内容の取りまとめと周知

長野県外を含むより多くの人に活動を広めるため、かつ、PRをより良いものとするため、女子美術大学と連携したキャラクター開発を行った。そのキャラクターを活用し、本事業内容等を啓発するリーフレット、チラシを制作し、県内の各市町村、社会福祉協議会、関係施設に周知を行った。また、エコロジーオンライン内のWEBページ内に特設ページを制作し、啓発活動を行った。



\*女子美術大学の学生が考えたキャラクターとビジュアル案





2015年9月、国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。地球上の誰一人取り残さない (leave no one behind) ことを誓ったアジェンダには、2016年から2030年までの国際目標となる「持続可能な開発目標(SDGs)」として、17のゴール・169のターゲットが明記されています。

私たち「里山ウェルネス研究会」が、森林保護や里山保全を通して解決を目指すのが以下の4項目。SDGsの目標を胸に環境課題と社会課題の同時解決を図っていきます。

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 8 働きがいも経済成長も
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 15 陸の豊かさを守ろう



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

本事業は、環境省「平成30年度持続可能な開発目標(SDGs)を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」を受託し、実施している事業です。



里山ウェルネス研究会

長野県飯山市大字豊田1105  
「いイヤマ里の家」  
事務局：エコロジーオンライン内 @JOSHIBI  
TEL：0283-23-9758 FAX：0283-27-7217  
MAIL：satowell@eco-online.org  
URL：https://www.eco-online.org/satoyama-wellness/



里山保全体験を通じた  
障がい者雇用促進を目指す  
プログラム事業



里山ウェルネス研究会

## \*取組を紹介するリーフレット (表)



里山ウェルネス研究会のご紹介

2018年3月、NPO法人エコロジーオンラインは、長野県飯山市で里山保全事業を展開するフォレストデザイン、御宿飯山館とともに、「里山ウェルネス研究会」を設立しました。

長野県の豊かな自然を生かした里山体験や森づくりに関わる事業を増やし、都市や地域に住む皆様に健康な暮らしを提案します。そして、高齢者や障がい者の居場所、働く場をつくっていきます。

また、里山に関わるライフスタイルから、エネルギー、循環型社会を考慮した地域づくり・街づくりを応援するため、行政や企業と協働しながら、地域での意見交換、活動支援、政策提言などを行っています。

里山保全と  
障がい者雇用につながる未来を  
一緒に作りませんか！

森林・里山と健康をつなぐ事業を行なう里山ウェルネス研究会では、「ログファイヤー」や、環境教育に活用される木製グッズの加工や、里山整備の実践のなか、障がい者が関われる作業を探していきます。その後、2年にわたって長野で積み上げた成果を、地域で干がける持続可能な開発目標(SDGs)を達成するためのモデルの一つとして全国へ発信します。

現在、里山ウェルネス研究会と一緒に活動してくれる個人や団体、「ログファイヤー」の普及に協力してくれる方たちを募集しています。



ログファイヤーとは

飯山市の自然豊かな景観を守るために行なう里山整備から生まれるスギやカラマツなどの間伐材を有効活用するために考案された「ログファイヤー」は特許を取得済みの独自の切り込みによってすぐに火がつくように加工された「木ろうそく」です。キャンプやバーベキューなどの熱源として、寒いときのストーブ代わりとして、いろいろなところで活躍。防災用の備蓄としても最適です。



～ログファイヤーのお問い合わせは～

「フォレストデザイン」  
〒389-2411  
長野県飯山市大字豊田1105  
TEL：0269-65-4653 FAX：0269-65-4655

## \*取組を紹介するリーフレット (裏)

## 里山保全と障がい者雇用がつながる未来を 一緒に作りませんか！



森林・里山と健康をつなぐ事業を行なう「里山ウェルネス研究会」では、ログファイヤーや、環境教育に活用される木製グッズの加工、里山整備の実践のなかに、障がい者が関われる作業を探していきます。今後、2年にわたって長野で積み上げた成果を、地域で手がける持続可能な開発目標(SDGs)を達成するためのモデルの一つとして全国へ発信します。

現在、「里山ウェルネス研究会」と一緒に活動してくれる個人や団体、ログファイヤーの普及に協力してくれる方たちを募集しています。

### ＊ログファイヤーとは

里山の自然豊から薪を産出するために必要な山間部から生まれるスズやカラマツなどの薪材を有効活用するために考案された「ログファイヤー」は特許を取得済みの独自の切り込みによってすぐに火がつくように加工された「木ろうそく」です。キャンプのバーベキューなどの燃焼として、寒いときのストーブ代わりとして、いんちんところで活躍、防災用の備蓄としても最適です。一般流通に活用できない木材を利用していることで環境への影響もありません。Forest Good 2016 薪材コンクールにて審査委員長奨励賞を受賞しました。

### ～ログファイヤーのお問い合わせ～

「フォレストデザイン」  
〒387-2411 長野県飯山市大字豊田1105  
TEL : 0269-45-4653 FAX : 0269-45-4655

### 里山ウェルネス研究会

長野県飯山市大字豊田1105  
「いいやま里の家」  
事務局：エコロジーオンライン内  
TEL : 0283-23-9758 FAX : 0283-27-7217  
MAIL : satowel@eco-online.org  
URL : <https://www.eco-online.org/satoyama-wellness/>



### ＊ログファイヤーをPRするチラシ

＊なお、リーフレット、チラシをA1サイズに拡大したポスターも制作した。

＜チラシ、リーフレット配布場所＞

配布場所：飯山市役所、長野県、御宿飯山館、いいやま里の家、飯山市社会福祉協議会、なべくら高原森の家、NPO 法人ここからなど

オ 経済的視点を含めた本格的な製品化を検討する企画会議を開催

本事業が継続的に実施される体制の構築に向けて、以下の取組を通じて、経済的視点を含めた自立可能性について検討した。

#### ①木工製品開発企画会議の実施

飯山木材を活用したログファイヤーの製品化及び継続的な体制構築の検討のための企画会議を開催した。企画会議においては、ログファイヤーや取組の普及活動、パッケージデザイン等を含んだ議論を行うほか、状況に応じて燃焼試験、比較試験等の検討、実施を行った。

<企画会議で実施した項目>

飯山木材を活用したログファイヤーの製品化の検討	第1回、第2回、第3回の協議会で検討
継続的な体制構築の検討	第3回の協議会で実施
製品の開発・販売活動、パッケージデザイン等を含んだ議論	第2回、第3回の協議会で実施

ログファイヤーのパッケージに貼るシールにキャラクターを使用した際のイメージです。



\*キャラクターを活用したパッケージ案

<一般的な木ろうそくとログファイヤーの比較>

\*高さ 40 c m程度での比較

項目	木ろうそく	ログファイヤー
着火までの時間	平均 15~40 分 (小枝使用時)	平均 3~4 分 (小枝使用時)
着火までの着火材	多くの小枝、紙、または市販の着火材、ガスバーナー等	小枝、火のついた炭など
着火してからの燃焼時間	1 時間半程度	1 時間半程度

\*なお、製品企画会議における開発、試験等で別途設備投資は必要がなかったため実施しなかった。

<PR において出た意見>

- ・オリンピック、パラリンピック等への営業
- ・キャッチフレーズを作る
- ・飯山市のふるさと納税の返礼品として扱う
- ・ターゲットは一般だけではなく、キャンプ場や学校、防災（避難所）など幅広くするとよい。
- ・認知度をあげるためには **WEB** ページの構築（動画）や地域へのチラシの配布を強化するとよい。
- ・地域の人に使ってもらおう仕掛けが必要
- ・もっと、林業と福祉が絡んでいることを大きく **PR** すべき
- ・料理だけではなく、他の活用を考えてみる。（見せる **PR** も必要）
- ・夜のバーベキューとかの使用はとても味があっている。
- ・うまく、燃え残りも活用できると面白い。
- ・ログファイヤー単体を売るのでなく、着火に必要な端材や道具もセットにするとよいかも。
- ・もっと、太さや大きさのバリエーションがあってもよい。 など

②木工製品の開発・販売に係るニーズ調査

前項①の会議での検討内容・結果をより実効的なものとするため、参加した長野市マッチングフェア、飯山市内で興味を示したお寺等へ試作品の試用状況に係るヒアリング調査を行った。

<ヒアリングで出た意見（お寺・神社に奉納した際の反応）>

- ・雰囲気が出て良い。
- ・暖取りになって良い（秋祭りの時期は、夜は肌寒い）

その他、ログファイヤー普及の **PR** として、「季刊地域（1月発売）」で記事掲載、や **ForeatGood2018** 間伐・間伐材利用コンクール」の応募等を実施した。こうした中、**ForestGood2018** 間伐・間伐材利用コンクールでは、林福連携事業が評価され「製品づくり・利用部門 審査委員長奨励賞」の受賞となった。



いざというとき便利 持ち運び自在の  
**小さいエネルギー**

まよめ編集部

**木質バイオマス**

**携帯薪コンロ マキコン**

組み立て式で持ち運びに便利。ロケットストーブの原理で強力な火力が発生するので、屋外で効率よく煮炊きができる。五徳を乗せた直火コンロ（煙突）とホットプレート（胴体）の2カ所で同時に調理ができ、4合の炊飯と1.5Lの汁物が30分ほどで完成。災害などいざというときは、落ちてくる枝や腐材も燃料になる。また、胴体に熱発電プレート（市販品で10万円程度）をつけてみたところ、100Wほど発電できた。

もりもと技術研究所  
兵庫県明石市大久保町高圧2-12-5  
☎050-3698-1400  
http://morimoto-rid.com

価格は税込1万2700円

**丸太ロウソク ログファイヤー**

スギやカラマツなどの間伐材（直径20cm）を長さ40cmほどに玉切りし、チェーンソーで十字に切り込みを入れて半年ほど乾燥させた。ポイントは着火口に逆四角錐型の穴を掘り、その穴の表面に縦溝をいくつも付けること。表面積を広くすることで、スギの葉や炭などの火種を入れたときに着火が円滑になる。着火後は大きなロウソクのような炎で90～120分ほど燃焼するので、着火口に鍋を載せて煮炊きもできる。

逆四角錐型穴の表面に溝を付ける

着火口の形状

十字の切り込み

サイズによるが1本2000～3000円

フォレストデザイン  
長野県飯山市大字島田1105  
☎0269-65-4653  
http://forestdesigner.jp

Forest Good 2018 間伐・間伐材利用コンクール 製品づくり・利用部門  
審査委員長奨励賞  
フォレストデザイン

製品等の名称	いろんなシーンで素早く着火 丸太ロウソク「ログファイヤー」
製品・取組の概要	素早く着火し、切り込みに沿って上部から時間をかけて丸太が燃焼します。照明や、暖房、調理の熱源として使え、キャンプの新しいアイテムとして、夜のイベントの演出として、あるいは災害時の備品としてなど幅広く利用できます。
製品開発・取組のきっかけ	切り捨てられた間伐材の有効利用をしたいということや、間伐をすすめる森林の持つ公益的機能を発揮させたり、山野草の咲き乱れる森づくりを行いたいということで、製作をはじめました。
製品・取組の内容・特徴	飯山市の里山整備から出た木材を中心に製品にしています。点火部分は、慣れない人でもすぐに着火するよう加工されており、着火スピードが著しく早くなりました。着火スピード向上の加工については特許を取得しています。またログファイヤーという名称も商標登録されています。
間伐材の利用量	3㎡
取組による効果等	利用価値の低い間伐材に経済的な価値を付与することができます。また、間伐の促進により里山が保全されます。現在、所属する里山ウェルネス研究会で環境省の受託事業（SDGs 同時解決事業）をうけ、福祉関係者に木の皮むきなど一部加工を依頼するなど、林業と福祉が連携して製造していく活動を始めた（林福連携）。
製品等の写真、図表	  <p>すぐに着火するよう加工されたログファイヤーの点火部。</p> <p>秋祭りに奉納されたログファイヤー。赤煙気を盛り上げます。側面に「奉納」と書かれています。</p>
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地震や集中豪雨などの災害や働き方改革による野外レジャーへの関心は高い。丸太ロウソクは世間の今日的な関心事に間伐材の有効性や可能性をアピールできる絶好アイテムではないか。燃え尽からず、都市部の狭い場所でも活用できる利点もある。災害用に消防団屯所や学校での配備、さらに東京五輪用の聖火への転用などアイデアも広がる。林業と福祉との林・福連携の取り組みもあり、地域連携に向け、発展性がある。</li> <li>○ 簡易に焚き火を楽しめることや、災害時にも対応し、人々に安心と安らぎを与える。</li> </ul>

（参考）「季刊地域（1月発売）」で紹介されたログファイヤー記事  
間伐・コンクールの審査委員長奨励賞受賞の内容

### 5) 月次報告書の提出

支援事務局（中部地方環境事務所が別途契約する中部環境パートナーシップオフィス）と連絡を密にし、定期的に取り組の状況の報告を行い、支援事務局からヒアリング等の要請があった場合は対応した。

<b>同時解決支援事業 月次報告(団体用)</b>	報告日	2018/9/5
	報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業				
団体名	里山ウェルネス研究会				
【前月の会議(打合せを含む)やイベントなど取組内容の報告】					
実施日	目的	実施内容(概要)	結果 (できた・できなかったことなど)	参加者 人数等	課題の確認
8月7日	同時解決事業キックオフミーティング	活動内容発表 アドバイザー委員の方々からのアドバイス 事業に関するワークショップ 意見交換会	自分たちの事業に対しての期待されている部分や今後、事業を実施していく上で、やらなければいけないことがわかった。	上岡 宮澤 大和 田 EPO中部 環境省	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
8月21日	長野県との調整 協議会参加について	長野県健康福祉部障がい者支援課を訪問	協議会にご参加いただく専門家を紹介いただき、オブザーバーとしての参加についても承諾をもらう。林福連携事業については長野県も進められていないので期待している。また、飯山市の農福連携も苦労していると聞いていたので手伝ってあげて欲しいとのコメントももらった。	上岡	□取組課題① ■取組課題② □取組課題③
8月21日	飯山市との調整 本事業の説明と協議会参加のお願い	飯山市役所訪問(環境省川合様と同行)	定立市長以下、経済部長、民生部長、商工観光課長、保健福祉課課長のみなさんと意見交換。本事業についてご理解をいただき、各課のオブザーバー参加について前向きにご検討いただき、プレ会議に参加していただくことになった。	上岡	■取組課題① ■取組課題② □取組課題③
8月26日	ネットワークの構築	信州いいやま観光局森山事務局長と意見交換	本事業についてご理解をいただき、なるべく高原森の家の担当者にも根回しをしておくとの返答をいただく。森林セラピーと里山体験を連携してツーリズムをつくっていくことを話し合うことができた。	上岡	■取組課題① □取組課題② ■取組課題③
8月27日	プレ協議会の開催 協議会開催前に協議会参加予定者に対する説明会	SDGsについての説明(EPO中部) 本事業の説明(里山ウェルネス研究会) スケジュールの確認 意見交換会	協議会参加者に本事業の肝となるSDGsについて理解していただき、その上で、本事業の同時解決事業の内容について理解いただけた思います。いろんな意見ができ、活発的な会議になった。	里山ウェル ねず研究会 5名、飯山市 (商工振興課、保健福祉課、林政課)3名、社会福祉協議会、森の家、日本林業振興会	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
計画の変更点 (変更の理由や変更後の予定など)	8/27日に第1回の協議会を開催予定していたが、まだまだ、SDGsに対する理解が少ないこともあり、勉強会も含め、プレ協議会として開催した。				
取組で分かったことや留意事項 (団体の気付きや学び、新たな課題、計画外の事柄など)	全国キックオフミーティングに参加し、本事業に対する期待度がわかった。頂いた意見を真摯に受け止め、本会及び事業の方向性を見極めた上で事業を進めていきたい。				
課題解決に向けた進捗 (実感としての気付き、SDGsで見た場合の方向性の確認など)	少しずつ、本事業に対する地域の理解も増え、課題でもあった地域での連携、ネットワークの構築も少しずつ解決してきた。				
メディア掲載 (掲載日、掲載紙の名称、見出しなど)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報紙				
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ				
	<input checked="" type="checkbox"/> Webメディア・その他	(エコロジーオンライン内に活動記事を掲載) <a href="https://www.eco-online.org/satoyama-wellness/">https://www.eco-online.org/satoyama-wellness/</a>			
支援事務局への要望 (情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など)					

## 同時解決支援事業 月次報告(団体用)

報告日 10月5日

報告者 大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業				
団体名	里山ウェルネス研究会				
【前月の会議(打合せを含む)やイベントなど取組内容の報告】					
実施日	目的	実施内容(概要)	結果 (できた・できなかったことなど)	参加者 人数等	課題の確認
9月10日	本事業の啓発等	中部環境事務所課長とともに副知事への本事業の説明、県との連携の確認		上岡・宮澤・余頃・環境省	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
9月12日	本事業の連携強化	飯山市足立市長への表敬訪問	市から全面的に協力を得る方向ができそう。10月に開催される市長選の広報にも林福連携事業を入れていただくことができた。	宮澤・余頃	<input checked="" type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
9月18日	事業内容を協議会メンバーと共有する	第1回協議会の開催 ログファイヤーについての体験・作業内容の確認、今後のスケジュールの確認など	ログファイヤーの作業工程や想定している障がい者への作業内容の確認。いくつか課題がでたが、クリアまでできそう。また、市から実施場所周辺の方々との連携も強化して欲しいということで、これから実施をしていく。	里山ウェルネス研究会・飯山市・長野県・EPO中部・環境省 13名	<input checked="" type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題③
9月28日	障がい者への内容確認	障がい者雇用促進のため、実施場所、作業内容についての確認	第1回協議会で出た障がい者の作業について、どのような場所で、どのようなことが可能か協議をし、実施場所、内容をある程度固めることができた。	余頃・川中	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
計画の変更点 (変更の理由や変更後の予定など)					
取組で分かったことや留意事項 (団体の気付きや学び、新たな課題、計画外の事柄など)	本事業はログファイヤーの製品がうまく露出することで、障がい者雇用や林業家の収入につながることから、どこまで製品のPRをしてよいのか難しいところ。				
課題解決に向けた進捗 (実感としての気付き、SDGsで見た場合の方向性の確認など)	飯山市から協力も得ることができ、当初審査委員のみなさまから言われていた課題も少しずつ解決できてきている。				
メディア掲載 (掲載日、掲載紙の名称、見出しなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> Webメディア・その他	信濃毎日新聞  (エコロジーオンライン内に活動記事を掲載) <a href="https://www.eco-online.org/satcyrna-wellness/">https://www.eco-online.org/satcyrna-wellness/</a>			
支援事務局への要望 (情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など)	EPOへというよりは、全体的なことではありますが、10月に開催の審査委員、アドバイザーの先生方への視察連絡会を協議会の開催と位置づけてよいとしてくださったことはよかったです。委託事業以外の業務が多少増えてしまったことが懸念項目であります。ご存知のとおり、8月開催のプレ協議会の時にSDGsについてお話しいただいたにも関わらず、10月の連絡会でも協議会メンバーにGEOCから説明したいというのに対してはなぜという印象であった。もし、GEOCから説明をしたいのであれば、本事業開始前に、協議会の中で必ずGEOCからSDGsについて話をすることという決まりにしてもよいのではないかと考えます。				

## 同時解決支援事業 月次報告(団体用)

報告日 11月5日

報告者 大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業				
団体名	里山ウェルネス研究会				
【前月の会議(打合せを含む)やイベントなど取組内容の報告】					
実施日	目的	実施内容(概要)	結果 (できた・できなかったことなど)	参加者 人数等	課題の確認
10月4日	審査委員及びアドバイザー視察連絡会・第2回飯山市林福連携協議会	審査委員、アドバイザーの皆様へのログファイヤーのデモンストレーション及び協議会メンバーとの意見交換	実際、審査委員、アドバイザーの皆様へログファイヤーをみていただき、取組方法を理解いただくことができた。また、意見交換でも活発な意見交換ができた。	上岡・宮澤・余頃・大和田・飯山市・環境省・中部EPO	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
10月5日	協働フォーラム	中部EPO主催の協働フォーラムにおいて、本事業の取り組みの説明と本事業を検証事業としたワークショップを開催した。	本事業は未知の部分も多く、着実に事業を進めることができれば、よい事業になることを再認識できた。	上岡・宮澤・余頃・大和田・中部EPO	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
10月26日	ログファイヤーの認知度向上	長野産業フォーラムへの参加し、ログファイヤーのPRを実施した。	消費者が求める価格帯等も調査することができた。啓発物を充実させることにより、展示会等でも十分PRできることがわかった。	余頃	■取組課題① □取組課題② □取組課題③
10月29日	第3回林福連携協議会・製品企画会議	今までの進捗状況の自己判断とログファイヤーを展開していく上での意見交換、企画会議を実施した。	進捗状況は5段階評価で平均2とあったところ。ログファイヤーにかんしては、地域住民を巻き込んだ、体験会等を実施すると面白いという意見がでた。	大和田・宮澤・余頃・飯山市	■取組課題① ■取組課題② ■取組課題③
10月29日	意見交換及び状況報告	中部森林管理局の宮沢局長への進捗報告と意見交換を実施	将来的にはいろんな分野と連携も図り、全国的な視点になれるようにとアドバイスを頂いた。	大和田・宮澤・余頃・志水(北信管理局)、宮澤局長	■取組課題① ■取組課題② □取組課題③
計画の変更点 (変更の理由や変更後の予定など)	特になし				
取組で分かったことや留意事項 (団体の気付きや学び、新たな課題、計画外の事柄など)	飯山市としては、もっと、活動拠点(里の家のある地区)の市民への周知や巻き込んだ取り組みにして欲しいという要望があり、調整をしていく。また、本事業は障がい者雇用を実施する団体へ、雇用をもっと促進できるよう素材の提供のモデリングであるが、自分たちが雇用をして運営をしていくと認識している方がいることがわかった。				
課題解決に向けた進捗 (実感としての気付き、SDGsで見た場合の方向性の確認など)	今回の肝であるログファイヤーの販売というのを、どこまで全面的に出してよいかわからなかったが、審査委員、アドバイザーの先生方からももっとログファイヤーを推すとよいことをアドバイスいただき、今後は販促面も踏まえ、PRをしていく。				
メディア掲載 (掲載日、掲載紙の名称、見出しなど)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input type="checkbox"/> Webメディア・その他				
支援事務局への要望 (情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など)					



同時解決支援事業 月次報告(団体用)

報告日 12月5日

報告者 大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業				
団体名	里山ウェルネス研究会				
【前月の会議(打合せを含む)やイベントなど取組内容の報告】					
実施日	目的	実施内容(概要)	結果 (できた・できなかったことなど)	参加者 人数等	課題の確認
11月16日	地域との連携	いいやまの里の家が所属する地域区の総会にて、代表等に対して、事業の説明を実施。説明の内容は本事業の概要とこの地域で出される木材を活用して、ログファイヤーを今後展開していくことを説明。	どこま事業の内容の理解を得られることができたか不明ではあるが、地域(区内)から出される木材を活用して、ログファイヤーを製作することに関しては理解と賛同を得られた。	余碩、飯山市等10名程度	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題③
11月16日	ログファイヤー製作準備	以前、協議した作業内容や皮むきの作業工程をもとに、ログファイヤーの製作のための準備、工具の選定を実施した。	選定威の結果、簡単に樹皮が剥けそうな道具(高圧洗浄機、皮むき用の刃物、サンダーなど)機材を選定した。これにより、実証事業の実施が進む。	余碩、川中	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
11月20日	障がい者作業について	NPO法人ここからと購入した機材を確認しながら、作業の進め方の最終確認。現在のここからの作業日程と調整しながらスケジュール作成する。	当初の予定と作業内容と変更するところもありそうだが、ここから課題2について、事業が進行することを旨とする。	余碩、川中	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
計画の変更点 (変更の理由や変更後の予定など)	作業実施を予定していた「いいやまの里の家」の作業場の建築が遅れ、障がい者との実証作業の行程に遅れが生じている。これからスケジュール等を確認し、進めていく。				
取組で分かったことや留意事項 (団体の気付きや学び、新たな課題、計画外の事柄など)	各団体のスケジュールや担当者のスケジュール等の調整がこまめに必要。				
課題解決に向けた進捗 (実感としての気付き、SDGsで見た場合の方向性の確認など)	少し滞っていた課題2が進捗はじめ、今後の事業が進んでいく。滞っていた理由については、本事業の研修でもある「いいやまの里の家」の作業場において、フォレストデザインが他の補助金にて実施を予定していた母屋の改修が9月の完成予定から遅れたためである。また、ログファイヤー製作においても地域の林業従事者に対する講義、研修を実施する方向である。				
メディア掲載 (掲載日、掲載紙の名称、見出しなど)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input type="checkbox"/> Webメディア・その他				
支援事務局への要望 (情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など)	2月下旬または3月上旬にセミナーや報告会を実施する予定で、基調講演として県内の福祉と雇用を連携した事業を実施する団体をご紹介いただきたい。				

## 同時解決支援事業 月次報告(団体用)

報告日	1月7日
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業				
団体名	里山ウェルネス研究会				
【前月の会議(打合せを含む)やイベントなど取組内容の報告】					
実施日	目的	実施内容(概要)	結果 (できた・できなかったことなど)	参加者 人数等	課題の確認
12月11日	ログファイヤー製造における皮むき作業等における障がい者に対する実証事業	NPO法人ここからの利用者に対して、ログファイヤー製造における皮むき作業の実作業における実証事業	人それぞれ、道具の好き嫌いや向き不向きがあり、いろんな道具を用意したことで、それが見分けることができた。皮むきにおいては、問題なくできることが確認できた。	余頃・川中・NPO法人ここからの人たち計7名	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
12月15日	本事業における取組の紹介のため	以前、副知事への表敬訪問等の新聞記事や10月6日にEPO中部主催のセミナーに参加いただき、長野県境パートナーシップ会議で取組発表を依頼され、参加した。	参加したことにより、ログファイヤーや取り組みにも興味をもたれ、実際につくってみたいや活動を体験する機会があれば見学、参加したいという話があり、今後の連携した事業ができそう。	余頃	<input checked="" type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
計画の変更点 (変更の理由や変更後の予定など)	当初は梱包作業等、一連の作業を実証事業として行うことを検討していたが、普段からもこうした作業はおこなっているため問題なくできるということから、今回は機器や道具を利用し、危険度の高い皮むき作業を行った。				
取組で分かったことや留意事項 (団体の気づきや学び、新たな課題、計画外の事柄など)	道具の好き嫌いがあり、いろんな道具を用意して良かったです。皆さん楽しくできるとのことです。一週間から10日に一回くらいは作業をしても良いと行った意見も聞かれました。作業の様子は別途写真を送付します。				
課題解決に向けた進捗 (実感としての気づき、SDGsで見た場合の方向性の確認など)	NPO法人ここからの利用者がどこまで、皮むき作業ができるかわからなかった部分はあるが問題なくできることがわかり、誰でもできるようきちんとマニュアル化し、作業工程を見える化することで、より一層課題解決に近づくと実感できた。				
メディア掲載 (掲載日、掲載紙の名称、見出しなど)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input type="checkbox"/> Webメディア・その他				
支援事務局への要望 (情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など)					

## 同時解決支援事業 月次報告(団体用)

報告日	2月5日
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業				
団体名	里山ウエルネス研究会				
【前月の会議(打合せを含む)やイベントなど取組内容の報告】					
実施日	目的	実施内容(概要)	結果 (できた・できなかったことなど)	参加者 人数等	課題の確認
1月11日	事務局会議	先月実施したログファイヤーの実証事業におけるヒアリング等を含め、連絡会に向けた本年度の事業における取り組みの確認や次年度に向けたの整理	実証事業におけるアンケートにおいては、本人及び施設担当者に対して、紙ベースで実施を確認。来年度に向けては、ログファイヤーと本事業を普及の対策をきちんとしていく方向で一致した。	上岡・大和田・余頃	<input checked="" type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
1月11日	表彰式の参加	ログファイヤーが間伐・間伐材利用推進ネットワーク主催の間伐・間伐材利用コンクール受賞で審査委員長奨励賞を受賞し、表彰式に参加し、取り組みの発表を実施した。	表彰式では、5分程度であるが取組発表があり、本事業の内容も簡単に紹介できた。参加した団体の中にも自分たちで木ろうそくを作っている人がおり、今後、連携が模索できた。	余頃	<input checked="" type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
計画の変更点 (変更の理由や変更後の予定など)	特になし				
取組で分かったことや留意事項 (団体の気付きや学び、新たな課題、計画外の事柄など)	間伐コンクールの受賞において、審査委員の講評内で、「①地震や集中豪雨などの災害や働き方改革による野外レジャーへの関心は高い中、今日的な関心事に間伐材の有効性や可能性をアピールできる絶好のアイテム② 林業と福祉との林・福連携の取り組みもあり、地域連携に向け、発展性がある。③簡易に焚き火を楽しめることや、災害時にも対応し、人々に安心と安らぎを与えるなどの点について、評価されました」とあった。				
課題解決に向けた進捗 (実感としての気付き、SDGsで見た場合の方向性の確認など)	実証事業の中で、障がい者の人たちが作業の後のヒアリングにおいて、普段、他の作業の感想をきいても無回答のことが多いのに対して、今回の事業においては、やってみよう、もう少しやってみようという回答が得られ、担当者も驚いていた。今回は単発的な作業であったが、継続的な作業においても今後、評価をしていきたい。				
メディア掲載 (掲載日、掲載紙の名称、見出しなど)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input type="checkbox"/> Webメディア・その他				
支援事務局への要望 (情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など)					

## 同時解決支援事業 月次報告(団体用)

報告日	3月5日
報告者	大和田正勝

※団体が記入し、毎月5日までに支援事務局に提出してください。

事業名	里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業				
団体名	里山ウェルネス研究会				
【前月の会議(打合せを含む)やイベントなど取組内容の報告】					
実施日	目的	実施内容(概要)	結果 (できた・できなかったことなど)	参加者 人数等	課題の確認
2月5日	事務局会議	連絡会に向けた最終うちあわせと来年度の事業方針についての打ち合わせ	来年度の事業方針においては、体験をメインにすること、実証事業においても長期間の実施をする方向で一致。	大和田・余 碩	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題③
2月5日	第2回の連絡会	仕様書に従い、2回目の連絡会を実施。先日行われたアドバイザーの先生方との委員会の報告をEPO中部側からあり、それを踏まえ、事業完了報告書にむけた今年度の振り返りを実施した。	本年度の事業においては、全体的に整理ができた。アドバイザー委員会で意見をできるだけ反映しつつ、来年度の事業を計画していく。	大和田・余 碩・EPO中 部・環境省	<input checked="" type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題③
2月18日	県内の選考事例調査	松本市内で障がい者雇用や就労支援を行う産業廃棄物処理業者の株式会社しんえこを訪問。	取り組みの経緯や障がい者雇用の現状や雇う場合の課題などいろいろ学ぶことができ、我々の取組においてもとても参考になるものとなった。	大和田・ EPO中部 (原・富田)	<input type="checkbox"/> 取組課題① <input checked="" type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
					<input type="checkbox"/> 取組課題① <input type="checkbox"/> 取組課題② <input type="checkbox"/> 取組課題③
計画の変更点 (変更の理由や変更後の予定など)					
取組で分かったことや留意事項 (団体の気付きや学び、新たな課題、計画外の事柄など)	障がい者を雇用する点では、既存の従業員のフォローが大切になるということがわかった。今回の我々の取り組みのように、外部委託のような形で障がい者雇用の支援を行う場合は、特に生産者と施設の担当者との意思疎通が大事であるということがわかった。				
課題解決に向けた進捗 (実感としての気付き、SDGsで見えた場合の方向性の確認など)	今回の障がい者雇用促進のための支援において、今回訪問したしんえこ社は同じ環境課題とする実際の現場や他社と連携した障がい者雇用のサポートも実施していた現場をみれ、パートナーシップを行いながら、障がい者雇用の課題解決と関連するSDGs分野の促進につながる事ができた。				
メディア掲載 (掲載日、掲載紙の名称、見出しなど)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌				
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ				
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他				
支援事務局への要望 (情報提供やマネジメント機能の強化、その他要望など)					



## 6) 連絡会、キックオフ会合への参加

### (1) 連絡会

支援事務局が飯山市で平成 30 年 7 月 26 日、平成 31 年 2 月 5 日に開催した連絡会に参加した。協議会事務局運営の進め方について協議、確認を行った。

### (2) キックオフ会合への参加

全国事務局(環境省民間活動支援室が別途契約する地球環境パートナーシッププラザ)が平成 30 年 8 月 7 日に東京で開催したキックオフ会合に出席した。キックオフ会合では、集まった全国の団体から、農業分野での SDG s の取り組み、木質バイオマスを活用した地域活性化、温泉街を SDG s で活性化するプロジェクトなど、多様なビジョンがシェアされ、ポスターセッションをとおして相互の意見交換が行われた。



### \* 国連大学で開催されたキックオフ会合の様子

<参加して感じたこと>

- ・長野県が SDG s 未来都市として国から選定されたことから、長野県と連携しながら飯山市を舞台として進めることになる。
- ・人手不足で進まない里山の保全を障がい者雇用を場として活用していくために必要となるノウハウを積み上げて全国に発信することが大切となる。
- ・キックオフに集まった地域において、少子高齢化による地域の担い手不足という課題は各地で共通するものだった。
- ・その課題をいかに解決していくは、今回できたネットワークを生かして進めていくかが重要である。

## 7) 支援事務局等との連携

本業務の実施及びとりまとめに当たり、支援事務局と連絡を密にし、定期的な状況を報告するとともに、支援事務局からの照会やヒアリング等の要請には、誠意をもって対応した。併せて、事業推進のため、支援事務局の EPO 中部に協力し、活動経緯チャート、SDG s 評価シート、協働評価シートを行った。

また、10月5日に長野市のもんぜんぷら座で開催された中部 EPO 主催の協働フォーラムに参加した。

フォーラムは2人の EPO 中部・協働コーディネーターによる地域環境活動の事例紹介が行われた後、本事業の林福連携の取組紹介を行いました。また、本事業における取組については、「活動見える化プログラム」による分析結果を EPO 中部が各種チャートを用いて説明・紹介しました。

<主なプログラム>

EPO 中部・協働コーディネーターによる 地域環境活動事例の紹介

### 1. ドローンがつなぐ自治組織とNPO

～地域資源の再発見と災害に強い集落づくり

特定非営利活動法人長野県 NPO センター事務局長 山室 秀俊 氏

### 2. こどもたちがもっと元気に輝く地域をめざして

特定非営利活動法人わおん 山田 勇 氏

### 3. 活動評価分析ワークショップ (分析対象事例)

長野県飯山市の里山保全体験を通じた障がい者雇用促進

大和田 正勝 氏 (里山ウェルネス研究会)

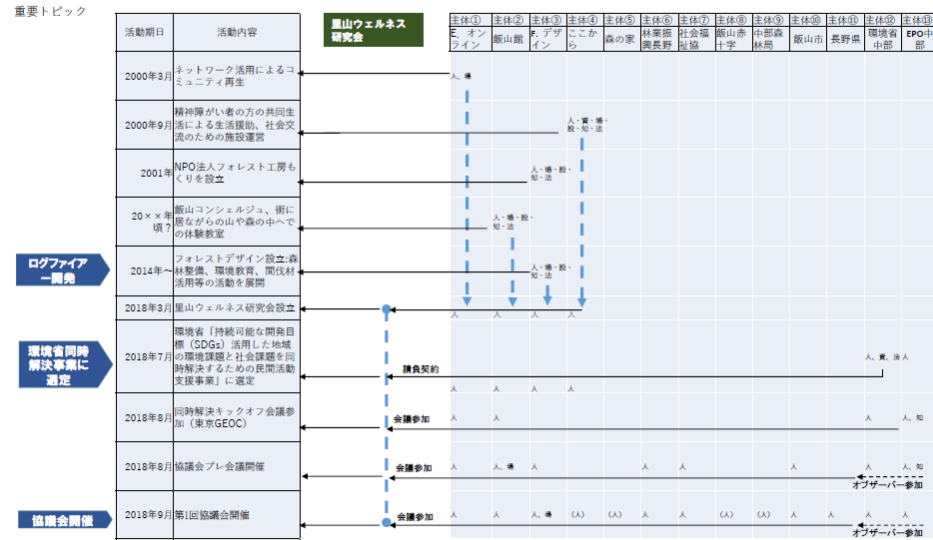
分析及び分析結果の紹介

原 理史 (EPO 中部／中部大学中部高等学術研究所)



里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業：活動経緯チャート 案：180924

当初の活動目的	当初の活動課題
長野県飯山市は、過疎化・高齢化に伴い、里山の整備をする人が減っている上に、豪雪地域ということもあり、冬の期間、林家や林業従事者の収入が無くなってしまおうという課題を抱えている。また障害者計画で政策推進を図ってきたが、就労支援の実習先確保等が課題となっている。	①森林保全のために間伐された木材利用が進まない ②障がい者雇用支援の不足 ③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少

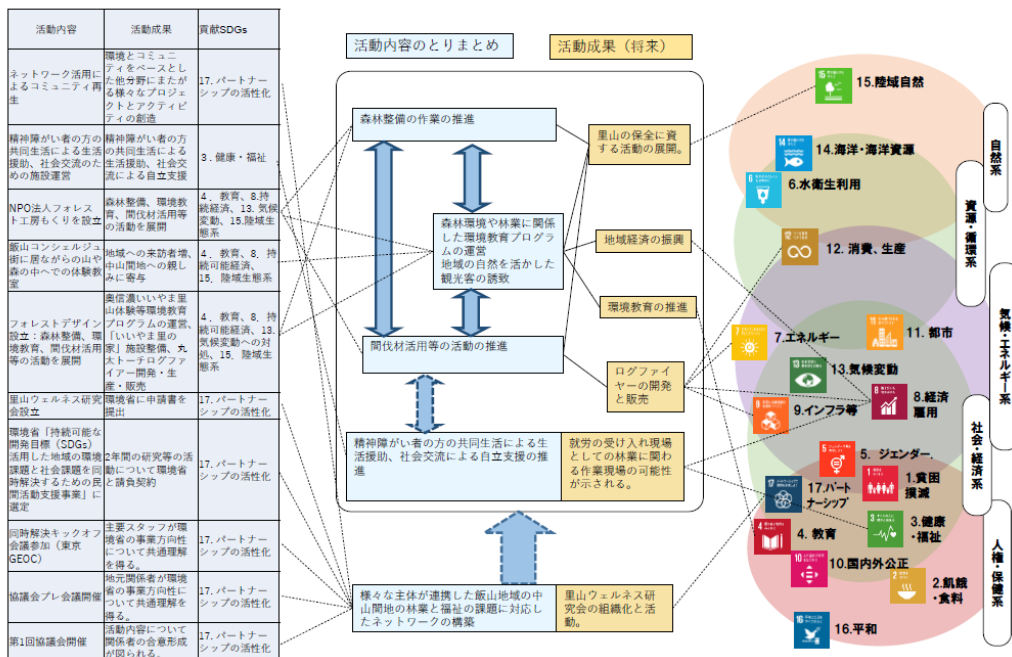


これまでの活動経緯

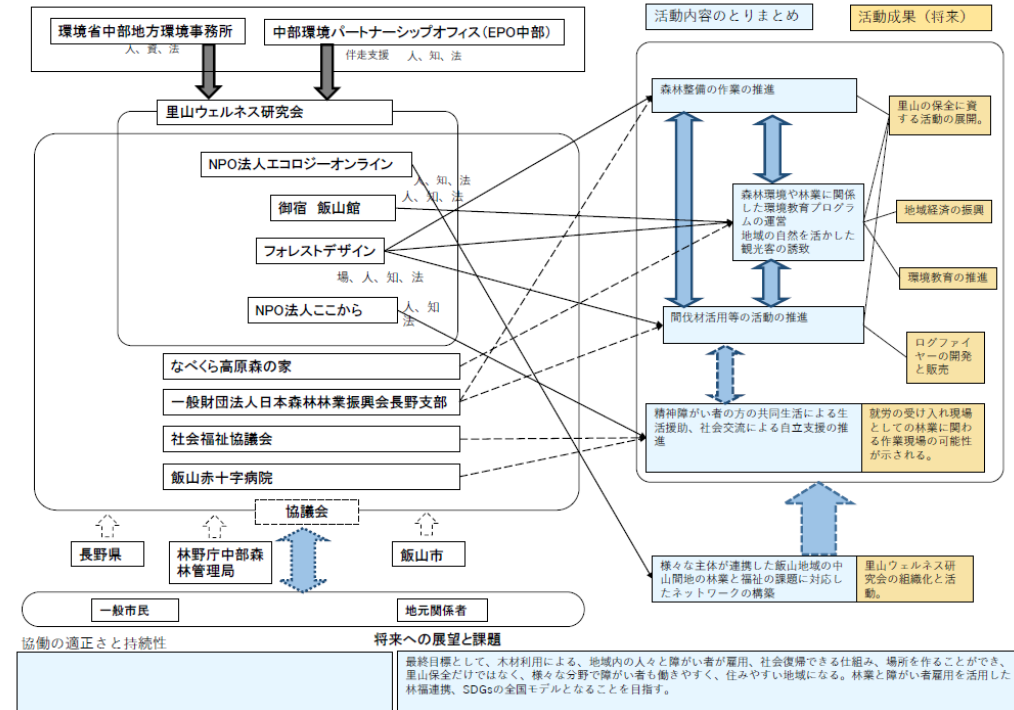
ネットワークによるコミュニティ再生活動を行ってきた「NPO法人エコロジーオンライン」、飯山コンシェルジュとして街に居ながらの山や森の中への体験教室なども行う「御宿飯山」、森林整備・環境教育・間伐材活用等の活動を展開し新規就労者を輩出した「フォレストデザイン」、精神障がい者の方の共同生活による生活援助・社会交流のための施設運営を行う「NPO法人ここから」が2018年3月に「里山ウェルネス研究会」を設立。森林整備・活用や環境教育等の取組みと障がい者雇用の取組みの連携を目指した研究を開始。2018年7月に環境省「持続可能な開発目標(SDGs)活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定。

里山保全体験を通した 障がい者雇用促進を目指すプログラム事業：SDGs評価チャート 案：181016

当初の活動目的	活動概要
長野県飯山市は、過疎化・高齢化に伴い、里山の整備をする人が減っている上に、豪雪地域ということもあり、冬の期間、林家や林業従事者の収入が無くなってしまおうという課題を抱えている。また障害者計画で政策推進を図ってきたが、就労支援の実習先確保等が課題となっている。	「エコロジーオンライン」のネットワーク構築機能、「御宿飯山」のコンシェルジュ機能、「フォレストデザイン」の森林活動ノウハウ、「NPO法人ここから」の精神障がい者支援ノウハウを活かした林福連携事業のプログラムを検討中。2018年9月18日に第1回協議会を開催。



凡例：人工（人）、資金（資）、場所・Web（場）、施設（設）、知見（知）、手法（法）、機材（材）



## 8) 中間報告書の提出

外部評価委員会の審査に必要な中間報告書（2 ヶ年事業計画自己評価シートの記入）を平成 31 年 1 月 10 日までに作成し、中部地方環境事務所に提出した。

⑧ 自己評価シート ※1月頃に予定されている中間評価の際に記入してください。  
 なお、項目に多少の変更がある場合がございます。

項目	課題に対してできたこと（その理由）	今後に向けた改善点（その理由）	自己評価（5点段階）				
【取組課題①】 ・森林保全のために開伐された木材利用が進まない	ログファイヤーが製品として確立をされてきた。加えて他の事業の補助金等も活用することにより、本事業を実施している「いいやま里の家」周辺の地域住民への説明により、地域の材料を活用できる見処がたつた。	製品化するだけではなく、きちんと自分たちの地域で生まれた材料が形になっていることを、より一層地域住民へ理解していただくため、体験会等の実施を行っていくようにし、また、広報にも力を入れ、製品の販売力も向上させていく。	5	4	3	2	1
【取組課題②】 ・障がい者雇用支援の不足	協議会メンバーに対し、障がい者雇用の「いろは」については、少しずつ理解がなされてきたと思う。ログファイヤーに関しても、大まかではあるが、実証をとおして、できる事がわかってきた。	まだまだ、製品としての流れにそった実証を実施できていないことから、林業家が行うこと、障がい者の方が行うことを明確化した上で、図表等も作成し、障がい者支援施設に委託できるものを見極めて生きたい。	5	4	3	2	1
【取組課題③】 ・冬の林家及び林業従事者等の収入減少	課題①、②と重なる部分でもあるが、他の事業における補助金等や協議会を通し、地域の林業家さんへの対話において、興味を示す林業家さんがいるということが把握できた。	ログファイヤーをより多くの林業家が製作できるよう、今後、講習会またはログファイヤー製造認証のための研修会を開催する。	5	4	3	2	1

### ■事業運営に関する自己評価/コメント（取組の有効性、計画性、多様な主体の巻き込み、持続性など）

事業運営に関して、開始当初は多くの方々から地域行政や地域住民との関わりについて多く指摘をうけていたが、地域行政である飯山市との関係も深くなり、行政側からも多くの意見をいただく事ができている点はとても評価している点と考える。

運営に関しては、当初の懸念でも予測はされていたが、他県にまたがり、また、複数の団体が連携した新しい団体ということもあり、計画通りに行かないことも多々あり連絡体制等については課題が残る部分となった。

しかしながら、多くの方々から期待を受けている事業であるということもあり、まだまだではあるが、少しずつ目標達成に近づいていると実感している。今後は、もっと多くの団体と連携できるよう計画を進めて生きたい。



## 4. 総括

### 1) 今年度事業の課題について

事業運営に関して、開始当初は多くの方々から地域行政や地域住民との関わりについて多く指摘をうけていたが、地域行政である飯山市との関係も深くなり、行政側からも多くの意見をいただく事ができた点は評価できる。

運営に関しては、当初の予測でも懸念はされていたが、県をまたいだ複数の団体が連携した新しい団体ということもあり、計画通りに行かないことも多々あり連絡体制等については課題が残る部分となった。

障がい者を雇用する点では、既存の従業員のフォローが大切になるということがわかった。また、今回の我々の取り組みのように、外部委託のような形で障がい者雇用の支援を行う場合は、特にログファイヤー生産者と障がい者支援施設の担当者との意思疎通が重要とも考えられる。

しかしながら、多くの方々から期待を受けている事業であるということもあり、まだまだではあるが、少しずつ目標達成に近づいていると実感している。今後は、もっと多くの団体と連携できるよう計画を進めていく必要である。

### 2) 次年度に向けて

次年度においては、1日の実証事業ではなく、ある一定期間の障がい者支援・自立支援施設利用者への実証事業の実施をはじめ。地域との連携やアクションとしてのログファイヤー体験のイベントやモニター事業を実施し、森林教育、防災品としてのログファイヤーの価値を高める活動を実施していく。

#### ①実証事業及びプログラム、作業の明確化

1年目に構築した作業工程を中心に自立支援施設に所属する者及び施設利用者を対象に一定期間を通じた実証事業を実施。実施後、参加した各個人、施設担当者に対してヒアリングを実施。安全性や作業効率向上を目指した、環境整備を行う。

#### ②林業家、林業関係者を中心としたログファイヤーの講習会を実施。

いいやま里の家や森の家を活用し、林業家、林業関係者及び市民に向けたログファイヤー製作のための講習会を開催する。

#### ③市民向けの交流会及び・報告会、セミナーの開催

・地域住民との交流や環境教育を目的として、クラフトづくりやログファイヤーの体験会を実施する。

・市民団体、県民、行政職員、学校等幅広い方々を対象とした本事業の報告会を開催。専門家によるセミナーも同時開催とする。

#### ④活動のPR

・協議会とあわせて、ログファイヤー及び林福連携事業の普及会議の実施

- ・ログファイヤーの価値をより高めるために、実際①及び②で製作したログファイヤーを活用し、市民、教育関係者、キャンプ施設等に対し、モニターを募集し、実際の使用に関するアンケートを実施する。
- ・取組活動のログファイヤーを **PR** する啓発ツールを制作する。
- ・詳細な燃焼試験等実施を行う

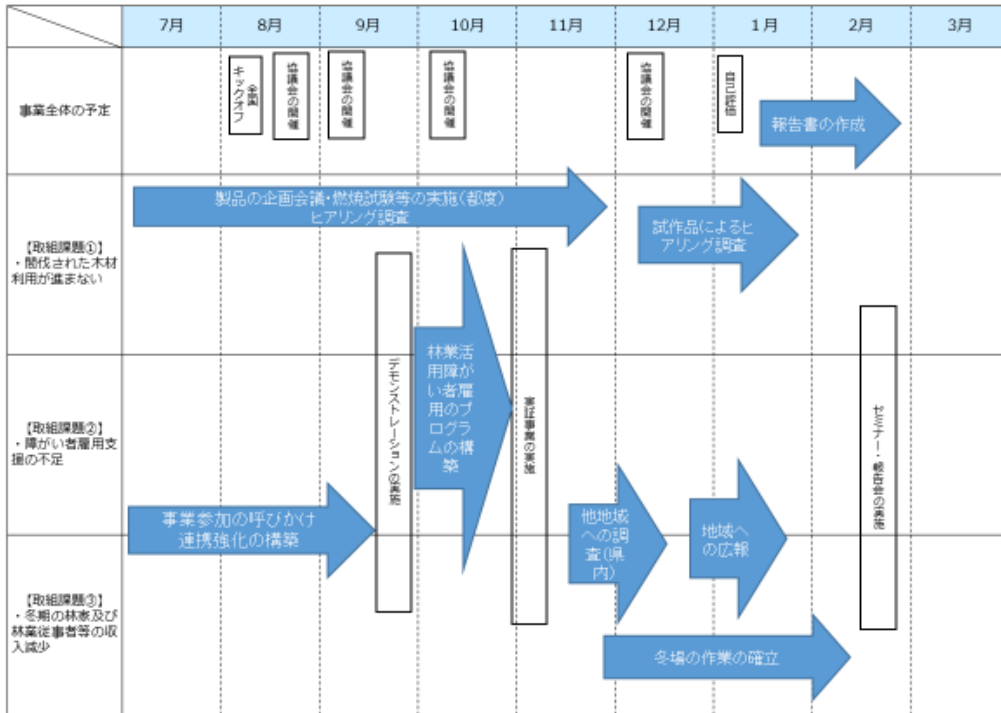
# 參考資料



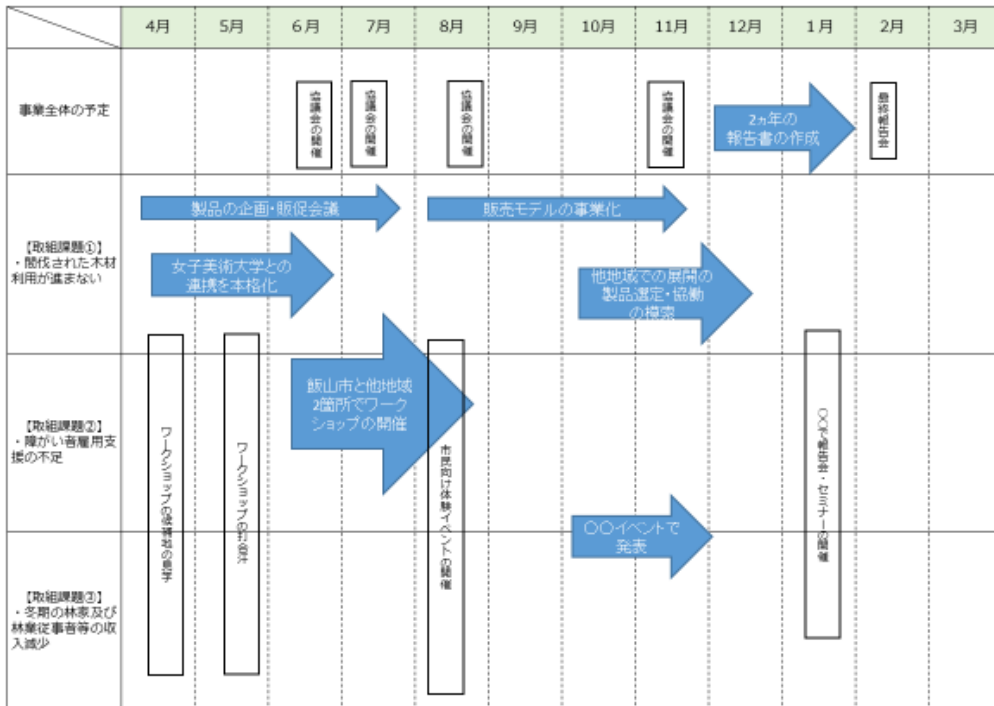


(参考資料1) 2カ年事業計画カレンダー

⑥-1 課題解決に向けたスケジュール (平成30年度)



⑥-2 課題解決に向けたスケジュール (平成31年度)



(参考資料 2) 飯山林福連携推進協議会議事録

第 1 回 飯山林福連携推進協議会議事録

1. 日時	2018 年 9 月 18 日 (火) 13:00~16:00
2. 場所	いいやま里の家
3. 参加者	<p>上岡 裕 里山ウェルネス研究会代表</p> <p>宮澤 豊 里山ウェルネス研究会副代表</p> <p>大和田正勝 里山ウェルネス研究会事務局長</p> <p>余頃友康 里山ウェルネス研究会</p> <p>坪井 学 飯山市商工観光課課長</p> <p>鈴木 靖史 飯山市民生部保健福祉課課長</p> <p>江尻浩和 飯山市経済部農林課課長</p> <p>城 風人 長野県林務部信州の木活用課課長</p> <p>吉澤史浩 長野県健康福祉部障がい者支援課</p> <p>有井寿美男 一般財団法人日本森林林業振興会長野支部</p> <p>西川遼馬 飯山市社会福祉協議会</p> <p>川合学 環境省中部地方環境事務所環境対策課</p> <p>富田夏子 EPO 中部</p> <p>原 理史 EPO 中部</p>
4. 議事	<p>(1) 里山ウェルネス研究会 宮澤豊 挨拶</p> <p>(2) 里山ウェルネス研究会事務局長 大和田正勝 本事業の説明</p> <p>(3) 環境省中部地方環境事務所 川合学 SDGs 事業紹介</p> <p>(4) 自己紹介</p> <p>(5) デモンストレーション</p> <p>(6) 意見交換要旨</p> <p>○長野県副知事、飯山市長に表敬訪問をした。長野県副知事からは「森林づくり県民税」などを良い活用先を探しているので「林福連携」に期待しているとの声をもらった。信濃毎日新聞で紹介されるなどメディアでの受けもよい。この事業を広めるために他のメディアにも声をかけようと思っている。(事務局)</p> <p>○10月5日にEPO中部が長野市で実施する「地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム」で協働実践事例として紹介することになった。参加できる方は参加して欲しい。(原)</p>

	<p>○次の協議会には審査を担当した有識者の皆さんが参加する。アンケートを配布するので先生たちに聞いてみたいことを書いて提出して欲しい。(富田)</p> <p>○長野県から「森林づくり県民税」を使ってみないかと相談が来ている。林福連携事業と森林セラピー事業につながる形での地域と連携した活用を検討している。(余頃)</p> <p>○「森林づくり県民税」は地区が中心に活用することになっている。すぐにでも地区住民に説明をして連携体制をつくった方がよい。(鈴木)</p> <p>○「森林づくり県民税」はNPO法人で申請できると聞いていたが、もう一度、担当者に確認して、地域にも声をかけるようにする。(余頃)</p> <p>○障がい者と連携して事業をすることはとても良いことだが、すべての人が温かく受け入れてくれるとは限らない。障がい者が関わる事業でもあるから、事業の内容をしっかりと説明して地域から誤解を受けないように進めて欲しい(鈴木)。</p> <p>○飯山は保守的な地域だ。事前に報告をしてあげればいいが、事後報告だと反発を招くことが多い。最初から地域住民に話しておくのがベストだ。(坪井)</p> <p>○SDGsなどの横文字を並べてしまうと高齢化が進む地域では理解されない。この事業が進むと林業が盛んになり、里山をきれいになり、障がい者の支援につながるということを具体的に伝えていって欲しい。そうすれば地域住民からのアイデアも寄せられるのではないか(江尻)</p> <p>○余頃さんは地域に移り住んできて、地域の祭りにも参加し、若者がいなくなった地域活動の中心にもなっていると聞いている。この事業についても地域への説明、交流会などを実施して、地域との連携をしっかりと取り組んでいこうと思う(上岡)</p> <p>(7) 留意事項</p> <p>飯山市役所から地域への説明を先にすることを要請されたこともあり、次回の協議会時に交流会を実施することとし、メディア等での紹介はしばらく控えることになった。</p> <p>(8) 次回開催日程</p> <p>2018年10月4日(火) 13:00~15:30</p>
--	---

第2回 飯山林福連携推進協議会議事録

1. 日時	2018年10月4日(水) 13:00~15:30
2. 場所	いいやま里の家及び飯山市社会福祉センター
3. 参加者	<p>上岡 裕 里山ウェルネス研究会代表          宮澤 豊 里山ウェルネス研究会副代表          大和田正勝 里山ウェルネス研究会事務局長          余頃友康 里山ウェルネス研究会          坪井 学 飯山市商工観光課課長          江尻浩和 飯山市経済部農林課課長          湯本和久 県北信地域振興局林務課課長          吉澤史浩 長野県健康福祉部障がい者支援課          上野隆一 長野県自立支援協議会運営委員          中田恵子 株式会社 フジすまいるファーム飯山          島岡 未来子 早稲田大学 研究戦略センター 准教授          松井 純 株式会社三重ティーエルオー 取締役副社長          戸成 司朗 住友理工株式会社 CSR部、NPO法人中部          プロボノセンター 共同代表理事)          永井均 環境省中部地方環境事務所環境対策課課長          長谷川 環境省中部地方環境事務所環境対策課          川合学 環境省中部地方環境事務所環境対策課          西田清紀 環境省中部地方環境事務所環境対策課          清本三郎 EPO 中部          富田夏子 EPO 中部          原 理史 EPO 中部</p>
4. 議事	<p>(1) EPO 中部 清本三郎 挨拶          (2) 自己紹介          (3) 里山ウェルネス研究会 大和田正勝 活動紹介          (4) デモンストレーション          (5) 意見交換会          挨拶・里山ウェルネス研究会協議会メンバーの紹介          同時解決事業の主旨説明:GEOC          委員等による講評          (6) 意見交換要旨          ○前回の協議会で飯山市役所の皆さんから出された地域住民への事業の説明をしっかりと欲しいとの要望を受けて、どんな連携が可能かを事務局で意見交換をしてきた。</p>

	<p>実際に「いいやま里の家」を会場にしてログファイヤーの体験会などをすることを検討している。今日もこの協議会を終えた後に、地域住民の人に集まってもらってバーベキューをすることになっている。(事務局)</p> <p>○10月16日に小境地区の区長、副区長、組長に参加してもらって説明会をすることになった。県の「森林づくり県民税」の担当者にも来てもらうことになっている。ただ、この事業との里山保全事業になるので誤解されないように努力したい。(余頃)</p> <p>○地域の住民にとっては環境省の事業も県の事業も同じことだ。SDGs事業で都会から森林学校で人が来る場合も地域の里山が整備されていないと問題がある。そういう意味では個人との関係で里山整備をする段階から、しっかりと地域と話し合っただけで全体のビジョンを描いて取り組むのがベストだ。(江尻)</p> <p>○「林福連携」の柱の一つは森林の整備になる。そういう意味で「森林づくり県民税」を有効活用して進めて欲しい。そのために「里山整備利用地域」の認定を受ける必要がある。そのためには地域の人との話し合いが重要になる。(湯本)</p> <p>○「林福連携」事業が動いて来れば飯山市で優先的に購入するようなことも考えられると思う。しばらくは障害福祉事業者への発注ということになるだろうが、将来的に就労支援A型のような事業に成長してくれることを望んでいる。(江尻)</p> <p>○障がい者の就労には大きくわけて3つのタイプがある。A型、B型と言われる障害福祉サービスにおける副就労、雇用契約に基づいて企業に就職するもの、自営業、会社役員などの就労だ。今のところ障害福祉サービスへの仕事の発注を考えていると思われるが、将来的には一般雇用ができるような取り組みに成長して欲しい。(吉澤)</p> <p>○障がい者雇用の会議をすると、福祉の専門職の人たちしか参加していないケースが多い。そういう意味でこのような幅広い職種の方が参加していれば活動の幅が広がることが期待できる。障がい者の場合は健常者と違って1から10まですることはできない。そういう意味で工程をわける</p>
--	--

	<p>ことをかんがえるとよい。工程をわけることで重度の障がい者も仕事に参加できるようになる。そのためにはカップヌードルの作り方の説明やウォシュレットの使い方の説明などを参考にしたわかりやすい工程表をつくるのが大切になる。(上野)</p> <p>○障がい者を雇用する場合は非収益事業が大きくなる。事業の継続性を考える場合は株式会社では難しくなる局面もある。組織のあり方を考えることも必要なのではないだろうか。(松井)</p> <p>○飯山市が熱心なのは素晴らしい。地域の皆さんに受け入れてもらえるように努力して行って欲しい。現在は林業での連携になっていると思うが、これからは障がい者の雇用に対する理解も必要。その両面で理解してもらえるように努力することを忘れないで(戸成)</p> <p>○収益モデル、障がい者の雇用モデル。早めに固めて早く試行をしてみるとよい。学生が多く来ているとのことなので、新しい顧客の獲得など学生の力を借りるのがいいと思う。県、市、社協等、協働関係者を多く集めることができるのは素晴らしい。だが、協働しているという熱がまだ伝わってこない。その強みをどう生かしていくかがカギになると思う。(島岡)</p> <p>(8) 次回開催日程 2018年10月29日(月) 13:00~15:30</p>
--	---

第3回 飯山林福連携推進協議会議事録

1. 日時	2018年10月29日(火) 13:00~16:00
2. 場所	飯山市社会福祉センター
3. 参加者	宮澤 豊 里山ウェルネス研究会副代表 大和田正勝 里山ウェルネス研究会事務局長 余頃友康 里山ウェルネス研究会 坪井 学 飯山市商工観光課課長 江尻浩和 飯山市経済部農林課課長
4. 議事	<p>(1) 10月5日に開催されたシンポジウムの報告 里山ウェルネス研究会 大和田正勝</p> <p>(2) 活動経緯チャート、SDGs評価シート、協働評価シートの説明 里山ウェルネス研究会 大和田正勝</p> <p>(3) 現在の事業達成度の評価 (主な評価は以下のとおり)</p> <p>①SDGsへの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○関係者は一定の理解はできていると思う</li> <li>○17のゴールを理解するのは時間がかかる</li> <li>○理解をしているつもりでも行動で示すのは難しい</li> <li>○人に伝えるのはとても難しい</li> </ul> <p>②行政との関係向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国、県、市の連携はできている</li> <li>○関係はとても向上していると思う</li> <li>○飯山市においては各課の課長さんが参加されていてとても良い。</li> <li>○足立市長にも関心を持っていただいて心強い</li> </ul> <p>③地域住民との関係・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動拠点地区の役員には説明できた</li> <li>○地域住民が林業整備と本事業の関係がまだ、理解されていない</li> <li>○これからの重点項目のひとつになると思う</li> <li>○リーフレットやメディアを通して理解を深めていきたい</li> </ul> <p>④障がい者雇用促進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○回数を重ねて行えば、理解され明確になると思う</li> <li>○具体的な賃金等も明確にしていく必要がある</li> <li>○今の段階では、まだ、話題としては針の穴程度</li> </ul>



	<p>○取組はよいので、ログファイヤーの価値向上にも繋がる</p> <p>○地域住民にも作業をみてもらうと良いかもしれない</p> <p>⑤ログファイヤーの役割、普及にむけて</p> <p>○何にしてもまだ、PR 不足</p> <p>○価値をどう伝えることも大切</p> <p>○経済的指標の面でも成り立つかの分析が必要</p> <p>○林業と障がい者をつなぐツールとしてはとてもよい</p> <p>○多くの人につかってもらえるとより普及するのでは</p> <p>⑥その他</p> <p>○現在の参加者は、NPO、行政の集まりに近い状態。 会議ではこれで十分であるが、もう少し地域の住民の参加もあってよいかもしれない</p> <p>○地域の森林整備の部分も明確にしていく必要がある</p> <p>(4) 意見交換要旨及び製品企画会議</p> <p>○製造、活用共に市民の人や関係者が体験できる場があるとよい</p> <p>○目玉としては、オリンピック、パラリンピックにもっていくのはとても PR になると思う</p> <p>○事業が軌道にのることで、市としてもふるさと納税の返礼品のひとつとして検討てもよい</p>
--	---

第4回 飯山林福連携推進協議会議事録

1. 日時	2019年3月8日（金）13:30～16:00
2. 場所	飯山市社会福祉センター
3. 参加者	<p>宮澤 豊 里山ウェルネス研究会副代表          大和田正勝 里山ウェルネス研究会事務局長          余頃友康 里山ウェルネス研究会          江尻浩和 飯山市経済部農林課課長          鈴木 靖史 飯山市民生部保健福祉課課長          中田恵子 住民（フジすまいるファーム飯山）          川合学 環境省中部地方環境事務所環境対策課          清本三郎 EPO 中部          富田夏子 EPO 中部          原 理史 EPO 中部</p>
4. 議事	<p>(1) フジすまいるファーム飯山の農福連携事業の紹介          フジすまいるファーム 中田恵子          ○フジすまいるファーム飯山設立の経緯          ○障がい者の作業内容          ○障がい者との関係について          ○すまいる観光プロジェクトについて          ○地域との連携について</p> <p>(2) H30年度里山ウェルネス研究会報告会          里山ウェルネス研究会 大和田正勝</p> <p>(3) 意見交換要旨及び情報提供          長野県森林税を活用したコグニサイズの取組と愛知県大府市で開催されたコグニサイズ研修について          ○本事業との連携したプログラム、体験会などの実施を目指しては</p>

(参考資料 3) 作成した啓発ツール (チラシ・リーフレット)



2015年9月、国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。地球上の誰一人取り残さない (leave no one behind) ことを誓ったアジェンダには、2016年から2030年までの国際目標となる「持続可能な開発目標(SDGs)」として、17のゴール・169のターゲットが明記されています。

私たち「里山ウェルネス研究会」が、森林保護や里山保全を通して解決を目指すのが以下の4項目。SDGsの目標を胸に環境課題と社会課題の同時解決を図っていきます。

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 8 働きがいも経済成長も
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 15 陸の豊かさを守ろう





2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

本事業は、環境省「平成30年度持続可能な開発目標(SDGs)」を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動「支援事業」を受託し、実施している事業です。



**里山ウェルネス研究会**

長野県飯山市大字豊田1105  
「いいやま里の家」 @JOSHIBI  
事務局：エコロジーオンライン内  
TEL：0283-23-9758 FAX：0283-27-7217  
MAIL：satowell@eco-online.org  
URL：https://www.eco-online.org/satoyama-wellness/



**里山保全体験を通じた  
障がい者雇用促進を目指す  
プログラム事業**



ハロウファイヤーを楽しもう!!

**里山ウェルネス研究会**



### 里山ウェルネス研究会のご紹介

2018年3月、NPO法人エコロジーオンラインは、長野県飯山市で里山保全事業を展開するフォレストデザイン、御宿飯山館とともに、「里山ウェルネス研究会」を設立しました。

長野県の豊かな自然を生かした里山体験や遊ぶづくりに関わる事業を増やし、都市や地域に住む皆様に健康な暮らしを提案します。そして、高齢者や障がい者の居場所、働く場をつくっていきます。

また、里山に関わるライフスタイルから、エネルジー、循環型社会を考慮した地域づくり、街づくりを応援するため、行政や企業と協働しながら、地域での意見交換、活動支援、政策提言などを行っています。



### 里山保全と

#### 障がい者雇用が広がる未来を

##### 一緒につくりますか！

森林・里山と健康をつなぐ事業を行なう里山ウェルネス研究会では、「ログファイヤー」や、環境教育に活用される木製グッズの加工や、里山整備の実践のなかに、障がい者が関われる作業を探していきます。その後、2年におわたつて長野で積み上げた成果を、地域で手がける持続可能な開発目標(SDGs)を達成するためのモデルの一つとして全国へ発信します。

現在、里山ウェルネス研究会と一緒に活動してくれる個人や団体、「ログファイヤー」の普及に協力してくれる方たちを募集しています。



—女子美術大学と連携して制作したキャラクターたちです—

### ログファイヤーとは

飯山市の自然豊かな景観を守るために行なう里山整備から生まれるスギやカラマツなどの間伐材を有効活用するために考案された「ログファイヤー」は特許を取得済みの独自の切り込みによってすぐに火がつくように加工された「木ろうそく」です。キャンプやバーベキューなどの熱源として、寒いときのストーブ代わりとして、いろいろなところで活躍。防災用の備蓄としても最適です。



～ログファイヤーのお問い合わせは～

「フォレストデザイン」

〒389-2411

長野県飯山市大字豊田 1105

TEL: 0269-65-4653 FAX: 0269-65-4655



## 里山保全と障がい者雇用がつながる未来を 一緒につくりませんか！



森林・里山と健康をつなぐ事業を行なう「里山ウェルネス研究会」では、ログファイヤーや、環境教育に活用される木製グッズの加工、里山整備の実践のなかに、障がい者が関われる作業を探していきます。今後、2年にわたって長野で積み上げた成果を、地域で手がける持続可能な開発目標(SDGs)を達成するためのモデルの一つとして全国へ発信します。

現在、「里山ウェルネス研究会」と一緒に活動してくれる個人や団体、ログファイヤーの普及に協力してくれる方たちを募集しています。

### ※ログファイヤーとは

飯山市の自然豊かな里山を守るために行なう里山整備から生まれるスズやカラマツなどの間伐材を有効活用するために考案された「ログファイヤー」は特許を取得済みの独自の切り込みによってすぐに火がつくように加工された「木ろうそく」です。キャンプやバーベキューなどの用途として、寒いときのストーブ代わりとして、いろんなところで活躍、防災用の備蓄としても最適です。一般流通に活用できない木材を利用しているため環境への影響もありません。Forest Good 2018 間伐コンクールにて審査委員長奨励賞を受賞しました。

### —ログファイヤーのお問い合わせ—

「フォレストデザイン」  
〒389-2411 長野県飯山市大字豊田1105  
TEL : 0269-45-4653 FAX : 0269-45-4655

## 里山ウェルネス研究会

長野県飯山市大字豊田1105  
「いいやま里の家」  
事務局：エコロジーオンライン内  
TEL : 0283-23-9758 FAX : 0283-27-7217  
MAIL : satowell@eco-online.org  
URL : <https://www.eco-online.org/satoyama-wellness/>





(参考資料 4) 活動記事 (WEB 記事)

里山ウェルネス研究会 ・ 28日 8月 2018

## ❁ 飯山林福連携推進協議会プレ会議を実施しました。



8月27日13時から、長野県飯山市で飯山林福連携推進協議会のプレ会議を実施しました。

会場となったのは100年以上の歴史を持つ「御宿 飯山館」。9月から本格的にスタートする同協議会の立ち上げのための説明会です。

飯山市での協議会設立を後押しする環境省の事業の説明、ツールとして活用されるSDGs（持続可能な開発目標）の紹介につづき、本協議会の運営についての具体的な方向性とスケジュールなどについて情報交換を行いました。

飯山市役所からも全面的なバックアップをいただき、**商工観光課、保健福祉課、農林課**の各課長も参加。社会福祉協議会、なべくら高原森の家の担当者も参加していただきました。

本事業のメインは、里山整備から生まれる間伐材を活用する「ログファイヤー」という商品を、地域のステークホルダーの皆さんと連携しながら、自然に、そして社会にやさしい商品としてプロデュース。それを販売していくことで障がい者のみなさんに仕事をつくっていくこと。飯山市ではすでに農福連携事業を実施していたり、就労支援に関わる団体も存在し、各団体との連携も提案され、新しい商品についてのアイデアもいただくなど、すでに協議会で実施する内容の先取りとなる会議となりました。

ご参加していただいた皆さま、ありがとうございました。

飯山林福連携推進協議会の第一回会合は9月18日午後からとなります。よろしく願いいたします。

里山ウェルネス研究会事務局

## ❁ 「飯山林福連携推進協議会」が正式にスタート



協議会参加者にログファイヤーづくりを公開

9月18日、長野県飯山市の「いいやま里の家」において、「飯山林福連携推進協議会」の第一回会合が開催された。

エコロジーオンラインを中心に構成するネットワーク組織「里山ウェルネス研究会」では、緑豊かな飯山の地において、里山保全事業を推進し、その事業を通して障がいを持った方に仕事を生み出し、健常者とともに働く場づくりを手がけていく。

その目的を達成するため、地域自治体や各分野の専門家などに集っていただき、当研究会の活動に対する指針を与えるのが、飯山林福連携推進協議会の役割となる。

第一回目となる協議会には、名古屋から中部環境事務所、EPO中部をサポートに迎え、長野県、飯山市からは林業、福祉の担当課がオブザーバーとして参加。本事業の中心的な役割を担う「ログファイヤー」の製造過程の見学や、環境省が手がけるSDGsのモデル事業としての役割、今後の活動についての情報交換を行った。

環境課題と福祉課題を同時解決するという、SDGsの先頭を走るテーマを持つ事業であり、すでにメディアなどで話題になっていることから、地域向けの説明会を開催するなど、しっかりとした情報提供が必要だという意見が出され、その対応を行うことを確認して協議会は終了した。

次回の協議会は10月4日、福祉の観点から本事業の役割を確認する内容での実施を予定している。

文 / 里山ウェルネス研究会事務局



(参考資料 5) 皮むきにおける簡易作業手順書

<small>かわ てじゆん</small> ログファイヤー皮むき手順	
	かこうまえ 加工前  かわ 皮がついているログファイヤー
	しよう どうぐ 使用する道具  きょくめん りょうて かわ むき 曲面カンナ、両手皮剥、ナタ、 かわ かま かわ き 皮はぎ鎌、ディスクグラインダー、皮むき器
	こうぐ きょくめん 工具①曲面カンナ  でんどう こうぐ ぜんご て だ 電動なので、工具の前後に手を出さない。  りょうて お 両手でしっかり押さえる。
	こうぐ りょうて かわ むき 工具②両手皮剥  は じぶん あ 刃を自分のすねに当てないように  き 気をつける。
	こうぐ かわ かま 工具③皮はぎ鎌  ちから かげん う 力の加減で、ログファイヤーが浮いて  おさ さぎょう しまうので、抑えながら作業する
	こうぐ 工具④ディスクグラインダー  ちからつよ お 力が強いのでしっかりと押さえて  さぎょう 作業する。
	こうぐ かわ き 工具⑤皮むき器  ちからかげん う 力の加減で、ログファイヤーが浮いてしまう  おさ さぎょう ので、抑えながら作業する
	かんせいひん 完成品  かわ 皮がむかれているログファイヤー

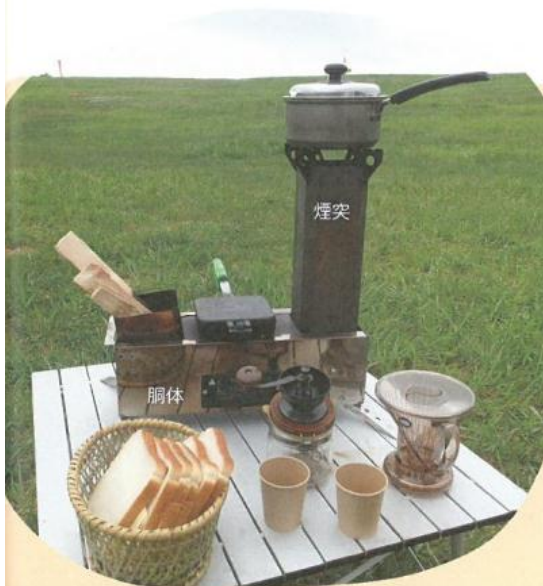


(参考資料 6) 機関紙に掲載されたログファイヤーの記事

いざというとき便利

持ち運び自在の

小さいエネルギー



価格は税込1万2700円

### 丸太ロウソク ログファイヤー

スギやカラマツなどの間伐材（直径20cm）を長さ40cmほどに玉切りし、チェーンソーで十字に切り込みを入れて半年ほど乾燥させた。ポイントは着火口に逆四角錐型の穴を掘り、その穴の表面に縦溝をいくつも付けること。表面積を広くすることで、スギの葉や炭などの火種を入れたときに着火が円滑になる。着火後は大きなロウソクのような炎で90～120分ほど燃焼するので、着火口に鍋を載せて煮炊きもできる。

フォレストデザイン  
長野県飯山市大字豊田1105  
☎ 0269-65-4653  
<http://forestdesigner.jp>



サイズによるが1本  
2000～3000円



26



(参考資料 7) 間伐・間伐材利用コンクールの応募資料及び審査員評価

**Forest Good 2018 間伐・間伐材利用コンクール 製品づくり・利用部門  
審査委員長奨励賞  
フォレストデザイン**

製品等の名称	いろんなシーンで素早く着火 丸太ローソク「ログファイヤー」	
製品・取組の概要	素早く着火し、切り込みに沿って上部から時間をかけて丸太が燃焼します。照明や、暖房、調理の熱源として使え、キャンプの新しいアイテムとして、夜のイベントの演出として、あるいは災害時の備品としてなど幅広く利用できます。	
製品開発・取組のきっかけ	切り捨てられた間伐材の有効利用をしたいということや、間伐をすすめ森林の持つ公益的機能を発揮させたり、山野草の咲き乱れる森づくりを行いたいということで、製作をはじめました。	
製品・取組の内容・特徴	飯山市の里山整備から出た木材を中心に製品にしています。点火部分は、慣れていない人でもすぐに着火するよう加工されており、着火スピードが著しく早くなりました。着火スピード向上の加工については特許を取得しています。またログファイヤーという名称も商標登録されています。	
間伐材の利用量	3 m <sup>3</sup>	
取組による効果等	利用価値の低い間伐材に経済的な価値を付与することができます。また、間伐の促進により里山が保全されます。現在、所属する里山ウェルネス研究会で環境省の受託事業（SDGs 同時解決事業）をうけ、福祉関係者に木の皮むきなど一部加工を依頼するなど、林業と福祉が連携して製造していく活動を始めました（林福連携）。	
製品等の写真、図表	 <p>すぐに着火するよう加工されたログファイヤーの点火部。</p>	 <p>秋祭りに奉納されたログファイヤー。雰囲気盛り上げます。側面に「奉納」と書かれています。</p>
評価コメント	<p>○ 地震や集中豪雨などの災害や働き方改革による野外レジャーへの関心は高い。丸太ローソクは世間の今日的な関心事に間伐材の有効性や可能性をアピールできる絶好アイテムではないか。燃え広がりず、都市部の狭い場所でも活用できる利点もある。災害用に消防団屯所や学校での配備、さらに東京五輪用の聖火への転用などアイデアも広がる。林業と福祉との林・福連携の取り組みもあり、地域連携に向け、発展性がある。</p> <p>○ 簡易に焚き火を楽しめることや、災害時にも対応し、人々に安心と安らぎを与える。</p>	



**これは便利！楽しい！**

コンロ、明かり、暖とり、これひとつで3役をこなす優れもの

# ログファイヤー®

**キャンプに野外イベントに大活躍！**



① ログファイヤーが倒れない安定した場所を選び設置する。  
(バケツ等に水を準備する。)

② 火のついた炭を1〜2個入れるか、小枝などの焚き付けを置いて着火する。

お鍋、やかんも置けます。

③ うちわであおいでログファイヤーに火を移す。  
※一度火がつけば後はログファイヤー本体が燃えていきます。



大きさにもよりますが、1〜3時間くらい持ちます。  
(切れ込みが入ったところまで燃えます。)

※使い終わった後の始末をきちんと行いましょう！

**<使用上の注意>**

- ・本製品は、乾燥した場所で保管ください。
- ・万が一の消火に備え、使用前にバケツ等に十分な水を準備してください。
- ・長いログファイヤーは、底に幅の広い板をビス留めするなどして安定させてお使いください。
- ・本品の上部に網などを置いて燃やし続けると、上部の平らな部分が薄くなり落下する恐れがありますので、薄くなる前に網などを取り外してください。
- ・本品は間伐材を使用しており、とげが刺さる場合があります。また、本品自体が燃え、熱くなるので軍手などを着用してお取り扱いください。
- ・室内及び火災の危険性がある場所では使用しないでください。
- ・[免責事項] 本製品によって生じるいかなる損害や損害等について一切責任を負いません。

ログファイヤーは長野の山を整備する際に出る間伐材を使用したエコロジー商品です。

■お問い合わせ

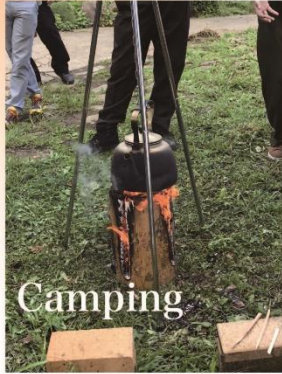


**フォレストデザイン**

〒389-2411 長野県飯山市大字豊田1105  
TEL 0269-65-4653 / FAX 0269-65-4655  
E-Mail info@forestdesigner.jp  
HP <http://forestdesigner.jp/>





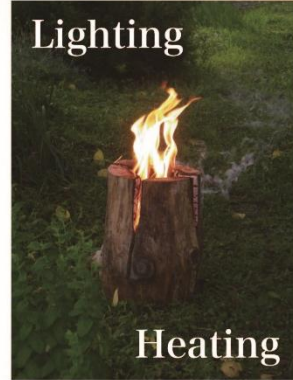


### Camping

キャンプに  
バーベキュー、湯沸かしなど  
キャンプに重宝します!



## ログファイヤー 使い方、使うシーン あれこれ



### Lighting

### Heating

明かり取り、暖房に



非常用に  
災害時にも役立ちます。



### Japanese Festival



### イベントに

お祭りなどのイベントを盛り上げます!



## かまくらづくりと 古民家いろいろ体験

1月中旬～2月末まで、いよいよま里の家(フォレストデザイン事務所)周辺にて、かまくらづくりのイベントを開催しています。詳細は、12月以降にフォレストデザインのホームページ、フェイスブックページをご覧ください。



かまくらの中で  
ログファイヤー  
使用中!



(参考資料9) 活動経緯チャート、SDGs評価シート、協働評価シート

里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業：活動経緯チャート 案：180924

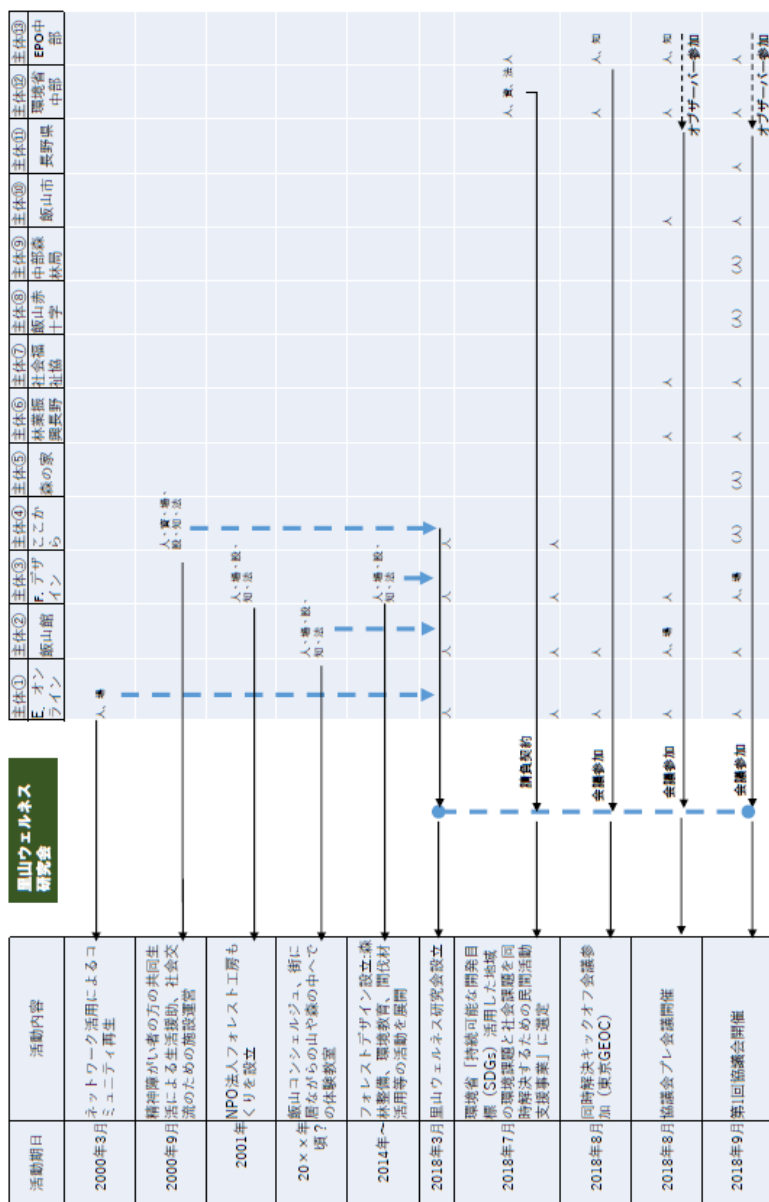
当初の活動目的

長野県飯山市は、過疎化・高齢化に伴い、里山の整備をする人が減っている上に、豪雪地帯ということもあり、冬の期間、林家や林業従事者の収入がなくなってしまうという課題を抱えている。また障害者計画で政策推進を図ってきたが、就労支援の実習先確保等が課題となっている。

当初の活動課題

- ①森林保全のために間伐された木材利用が進まない
- ②障がい者雇用支援の不足
- ③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少

重要トピック

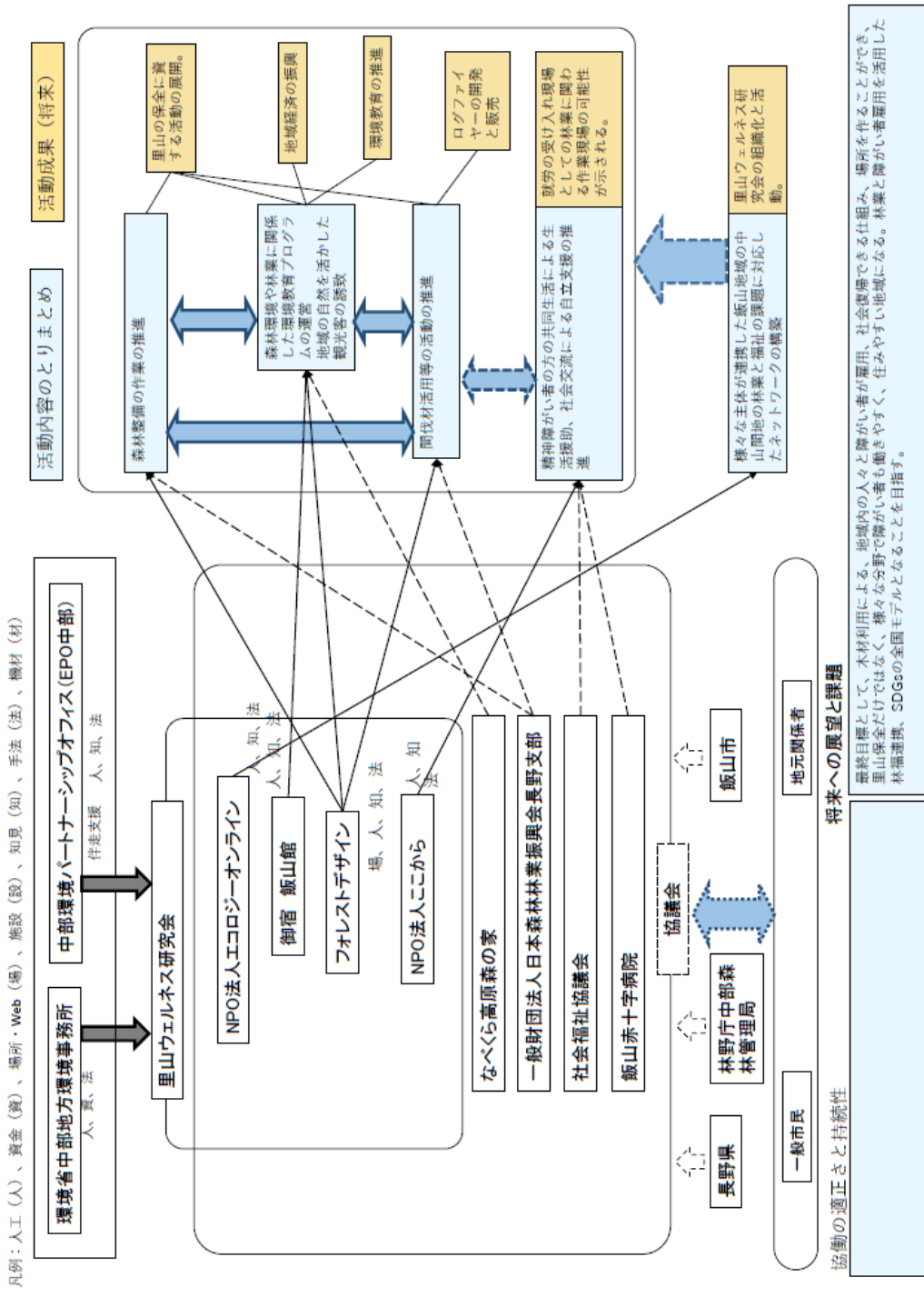


これまでの活動経緯

ネットワークによるコミュニティ再生活動を行ってきた「NPO法人エコロジーオンライン」、飯山コンシェルジュとして街に居ながらの山や森の中へでの体験教室なども行う「御階飯山館」、森林整備・環境教育・間伐材活用等の活動を展開し新型木造トーチを開発した「フォレストデザイン」、精神障がい者の方の共同生活による生活援助・社会交流のための施設運営を行う「NPO法人ここから」が2018年3月に「里山ウェルネス研究会」を設立。森林整備・活用や環境教育等の取組みと障がい者福祉の取組みの連携を目指した研究を開始。2018年7月に環境省「持続可能な開発目標(SDGs)活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定。



里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業：協働評価チャート（予想図） 案：180927





⑧ 自己評価シート ※1月頃に予定されている中間評価の際に記入してください。  
なお、項目に多少の変更がある場合がございます。

項目	課題に対してできたこと (その理由)	今後に向けた改善点 (その理由)	自己評価 (5点段階)
<p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林保全のために間伐された木材利用が進まない</li> </ul>	<p>ログファイヤーが製品として確立をされてきた。加えて他の事業の補助金等も活用することにより、本事業を実施している「いいやま里の家」周辺の地域住民への説明により、地域の材料を活用できる目処がたった。</p>	<p>製品化するだけでなく、きちんと自分たちの地域で生まれた材料が形になっていることを、より一層地域住民へ理解していただくため、体験会等の実施を行っていくようにし、また、広報にも力を入れ、製品の販売力も向上させていく。</p>	<p>5 4 3 2 1</p>
<p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者雇用支援の不足</li> </ul>	<p>協議会メンバーに対し、障がい者雇用の「いいやま」については、少しずつ理解がなされてきたと思う。 ログファイヤーに関しても、大まかではあるが、実証をおおして、できる事がわかってきた。</p>	<p>まだまだ、製品としての流れにそった実証を実施できないことから、林業家が行うこと、障がい者の方が行うことを明確化した上で、関係等も作成し、障がい者支援施設に委託できるものを見極めて生きたい。</p>	<p>5 4 3 2 1</p>
<p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の林業及び林業従事者の収入減少</li> </ul>	<p>課題①、②と重なる部分でもあるが、他の事業における補助金等や協議会を通し、地域の林業家さんへとの対話において、興味を示す林業家さんがいるということが把握できた。</p>	<p>ログファイヤーをより多くの林業家が製作できるよう、今後、講習会またはログファイヤー製造認証のための研修会を開催する。</p>	<p>5 4 3 2 1</p>
<p>■ 事業運営に関する自己評価/コメント (取組の有効性、計画性、多様な主体の巻き込み、持続性など)</p> <p>事業運営に関して、開始当初は多くの方々から地域行政や地域住民との関わりについて多く指摘をうけていたが、地域行政である飯山市との関係も深くなり、行政側からも多くの意見をいただく事ができています点でも評価している点と考える。</p> <p>運営に関しては、当初の懸念でも予測はされていたが、他県にまたがり、また、複数の団体が連携した新しい団体ということもあり、計画通りに行かないことも多々あり連絡体制等については課題が残る部分となった。</p> <p>しかしながら、多くの方々から期待を受けている事業であるということもあり、まだまだではあるが、少しずつ目標達成に近づいていると実感している。今後は、もっと多くの団体と連携できるような計画を進めて生きたい。</p>			





この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて作成しています。